セセキ トラクター

TS1610
TS1910
TS2210
TS2510
TS2810

取扱説明書

井関農機株式会社

はじめに

このたびは，ヰセキトラクタをお買い上げいただき，ありがとうございました。

お買い上げいただきましたトラクタは，長い伝統を持つヰセキの豊かな経験と，最新の技術を結集し，厳重なる品質管理のもとに製作した，農業近代化への期待にこたえる最新鋭のトラクタであります。

性能はもちろんのこと，安全面でもゆきとどいた配慮をはらっておとどけするこの新鋭機は，必ずやご愛用者各位にご満足いただけるものと確信いたしております。

この取扱説明書には，本機はもとより，作業機の性能も最大限に発揮させ，効率よくご使用いただくための大切な内容が書かれています。

内容を充分ご理解いただき，日常の手引きとしてご活用ください。

ヰセキでは，常に新しい技術を製品に取り入れておりますので，お手元のトラクタと取扱説明書に多少の違いが生じる事もありますので，あらかじめご了承ください。

目　　次

〔1〕 保証とサービス …… 1

〔2〕 小型特殊自動車としての取扱い …… 2

〔3〕 外観と名称 …… 4

〔4〕 新車の取扱い …… 6

〔5〕 各種装置と取扱い …… 7

1. 計器およびスイッチ …… 7
2. レバーおよびペダル …… 12
3. 油圧装置の取扱い …… 17

〔6〕 運転の仕方 …… 21

1. 始　　動 …… 21
2. エンジン停止 …… 22
3. 基本運転 …… 23
4. 運転中の動作点検 …… 26

〔7〕 格　　納 …… 27

1. 日常の格納 …… 27
2. 長期格納 …… 27
3. 長期格納後の使用 …… 30

〔8〕 冬期の取扱い …… 31

1. エンジンオイル …… 31
2. 不凍液 …… 31
3. バッテリの手入 …… 32
4. 雪路，凍結路の運転 …… 32

〔9〕 保守と点検 …… 33

1. 仕業点検 …… 33
2. 給　　油 …… 36
3. 給油・給水一覧表 …… 41

4. 定期点検・整備一覧表 …… 43
5. 各部点検・調整要領 …… 45
- クラッチペダル …… 45
- セーフティスイッチ …… 46
- ブレーキペダル …… 46
- スロットルレバー …… 47
- トーイン調整 …… 47
- ステアリングホイル遊び …… 48
- 燃料エアー抜き …… 49
- 前後輪トレッド調節 …… 50
- 前輪軸上下調節 …… 54
- シート前後調節 …… 54
- バッテリの点検 …… 55
- エアークリーナの点検・清掃 …… 56
- ラジエータ …… 58

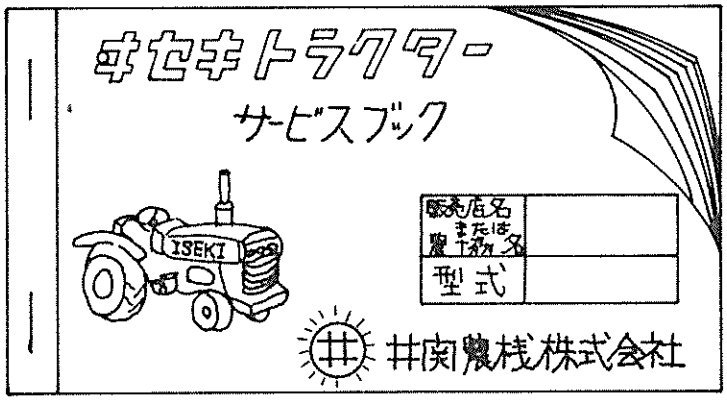
〔10〕 故障の診断と処置 …… 59
〔11〕 農作業を安全におこなうために …… 66
〔12〕 サービス資料 …… 76
1. 推奨潤滑油一覧表 …… 76
2. 作業機一覧表 …… 77
3. 仕様一覧表 …… 93
4. 配線図 …… 95

1　保証とサービス

井関農機は，弊社の製品がお客さまに満足してご使用いただける，信頼の高い品質であることを保証いたします。

1　新車の保証について

新車の保証内容については，サービスブックをごらんください。このサービスブックには，保証書とサービス券が入っています。詳しくはサービスブックをごらんになり，お買い上げの販売店にご相談ください。



2　ヰセキ・サービス網

ヰセキでは，いつでもどこでも安心してご利用いただけるよう，全国各地に販売会社サービス工場を配置し，定期点検整備および一般修理を行なっております。ご用命の節はお気軽にご利用ください。

なお，部品の注文，ご相談には次の事項をお忘れなく。

- トラクタの形式，および本体番号
- エンジン形式，およびエンジン番号
- 部品コード番号

2　小型特殊自動車としての取扱い

キセキトラクタは，全機種小型特殊自動車として運輸大臣の型式認定を受けています。

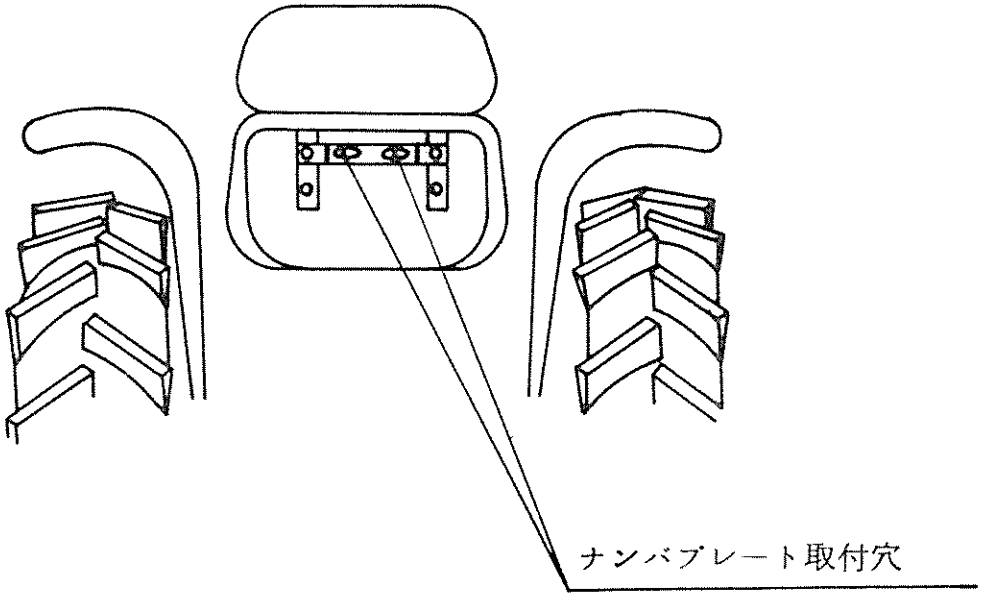
1　運転資格

キセキトラクタの運転には，小型特殊自動車の運転可能な免許証が必要です。

2　手続き

ナンバプレート交付の手続きは，各市町村により相違があります。

詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。



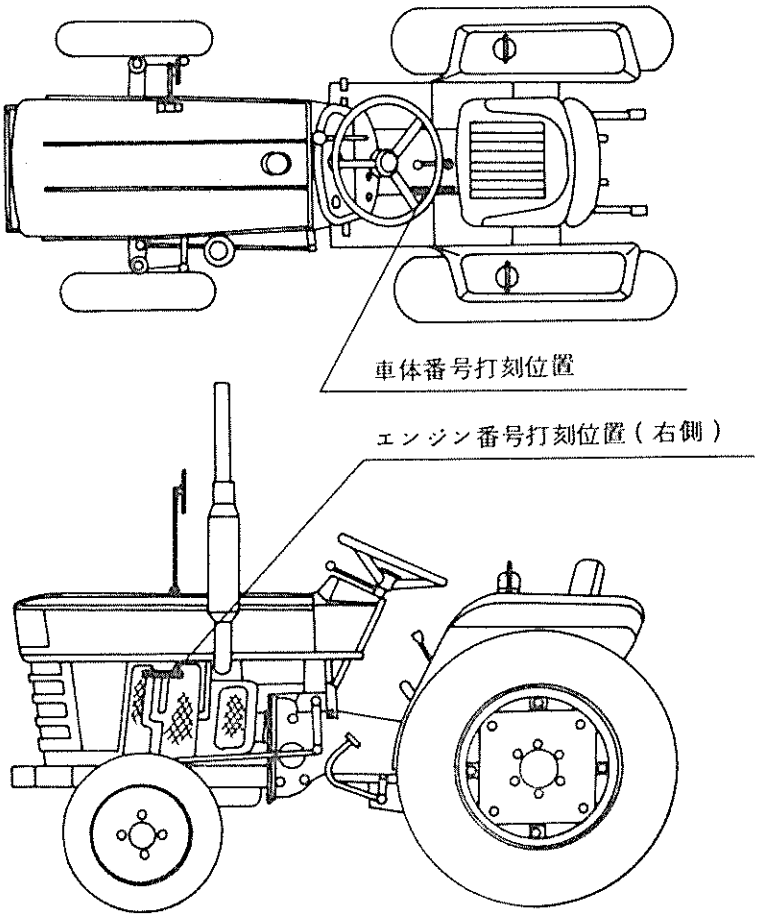
3　注意事項

小型特殊自動車は道路交通法施行規則第２条により，次の様に規定されています。

全　　長	4.7メートル以下
全　　巾	1.7メートル以下
全　　高	2.0メートル以下
速　　度	毎時１５キロメートル以下
総排気量	1.5リットル以下

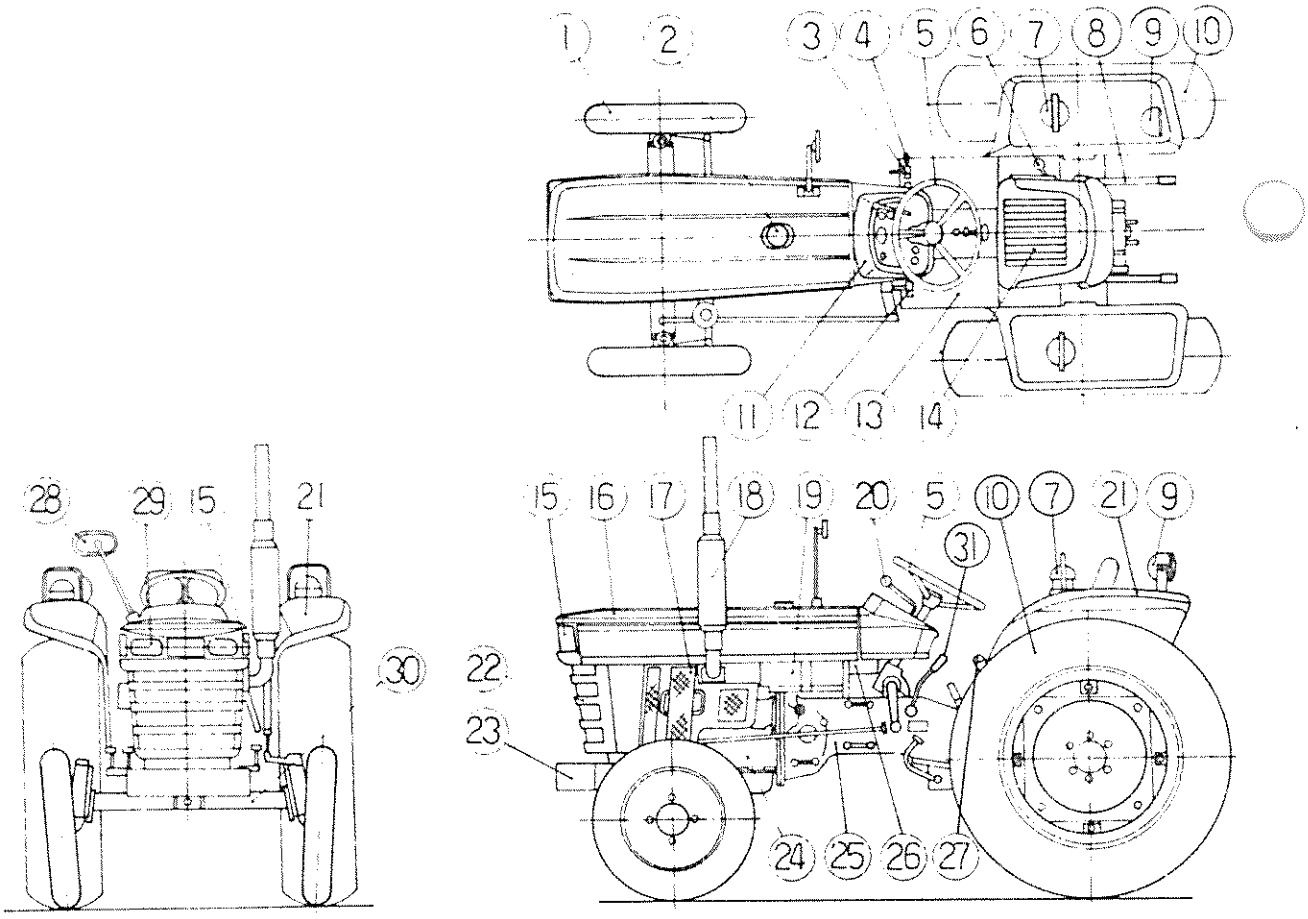
⚠ 道路走行時は農作業用小型特殊自動車の運転可能な運転免許証を必ず所持して運転してください。

4　車体番号およびエンジン番号



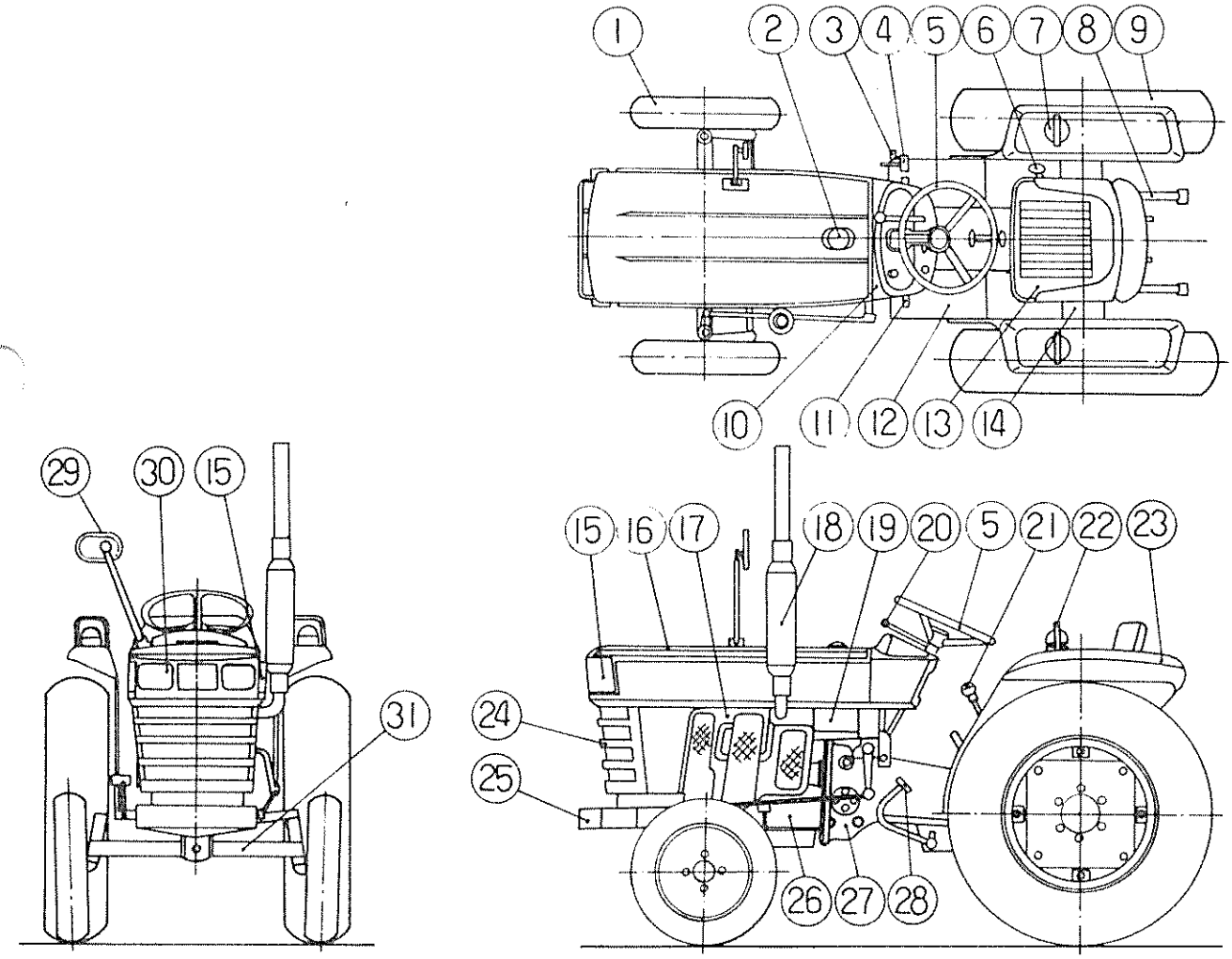
3　外観と名称

1　ＴＳ２８１０型・ＴＳ２５１０型・ＴＳ２２１０型



1	フロントホイル	9	作業灯	17	ファンカバー	25	クラッチハウジング
2	タンクキャップ	10	リヤータイヤ	18	マフラ	26	バッテリ
3	ブレーキペダル	11	メータパネル	19	フューエルタンク	27	メインチェンジレバー
4	アクセルペダル	12	クラッチペダル	20	スロットルレバー	28	バックミラー
5	ステアリングホイール	13	ステップ	21	フェンダ	29	ヘッドランプ
6	油圧コントロールレバー	14	シート	22	フロントグリル	30	フロントアクスル
7	ウインカランプ	15	サイドマーカ	23	フロントヒッチ	31	クリープレバー（Ｌ型のみ）
8	リフトアーム	16	ボンネット	24	エンジン		

2　ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型



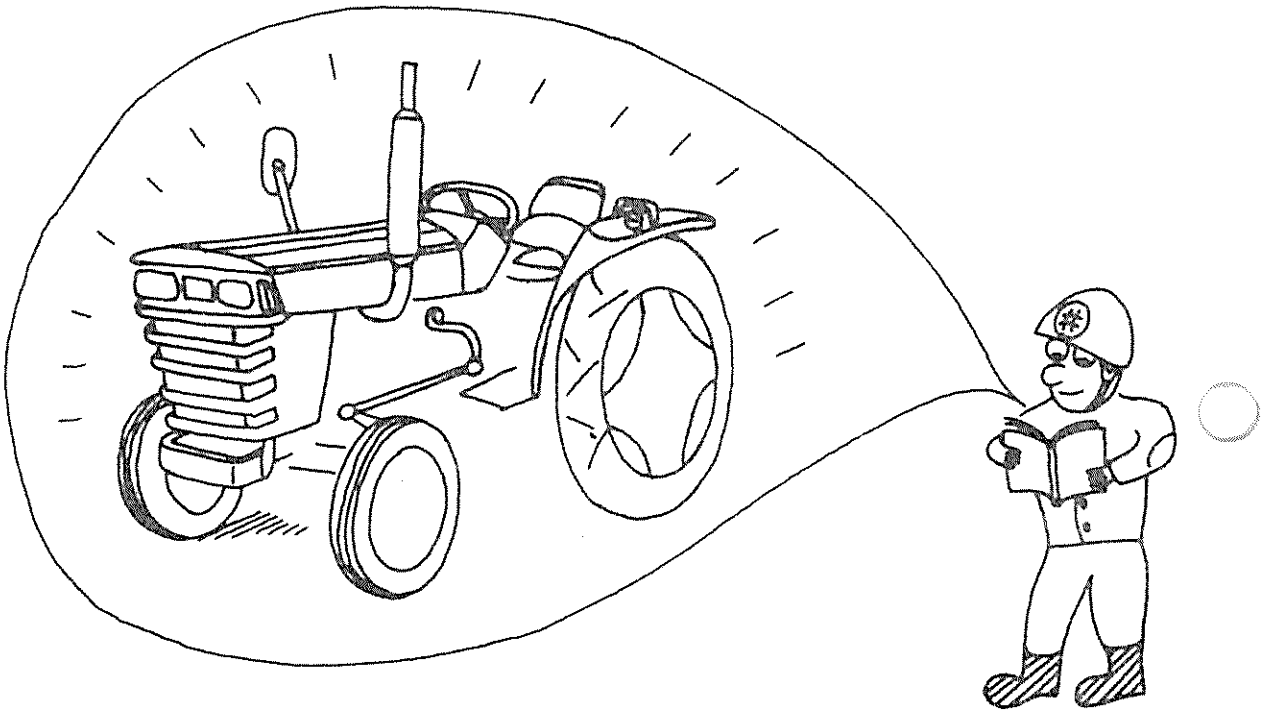
1	フロントホイル	9	リヤーホイル	17	ファンカバー	25	フロントヒッチ
2	タンクキャップ	10	メータパネル	18	マフラ	26	エンジン
3	アクセルペダル	11	クラッチペダル	19	フューエルタンク	27	クラッチハウジング
4	ブレーキペダル	12	ステップ	20	スロットルレバー	28	クラッチペダル
5	ステアリングホイール	13	シート	21	メインチェンジレバー	29	バックミラー
6	油圧コントロールレバー	14	リヤーアクスルハウジング	22	ハンドキャッチャ	30	ヘッドランプ
7	ウインカランプ	15	サイドマーカ	23	フエンダ	31	フロントアクスル
8	リフトアーム	16	ボンネット	24	ボンネットグリル		

4　新車の取扱い

新車の取扱いは，車の寿命と性能を大きく左右します。
使用初期５０時間位までは特に次の事項に注意し，トラクタの性能を十分に発揮させ，末永くご活用ください。

1　新車取扱注意事項

- まず各所に添付されている注意事項をよくご理解ください。
- 必ず低速で暖気運転を行なってから作業をお始めください。
- 急発進，急加速，急制動はさけてください。
- 新車のうちは無理な運転をさけてください。
- 新車のオイル交換，補給は早めに行なってください。
- 納入直後５０時間，納入時より起算して１１ヶ月後，又は３００時間の定期点検は必ず受けましょう。

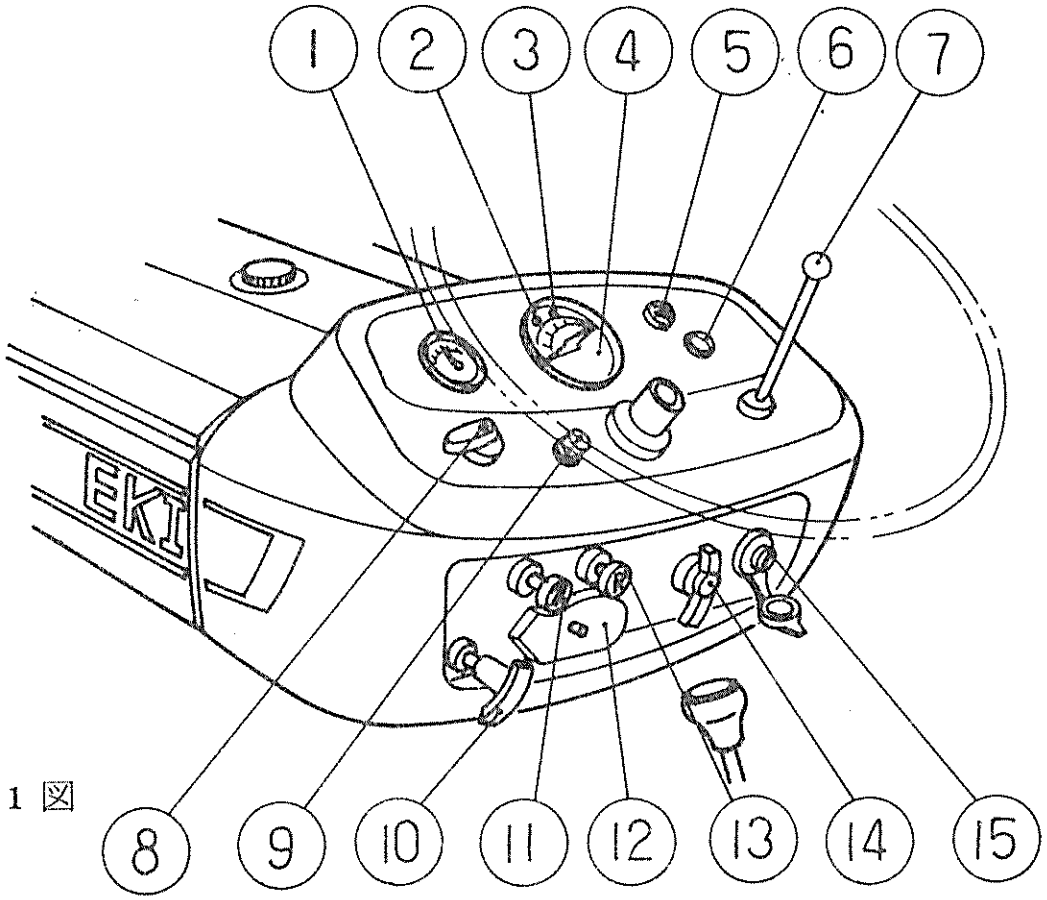


5　各種装置と取扱い

お買い上げいただきましたトラクタの型式により，計器などの種類，配置が異なりますが，詳細につきましては，次の通りです。

1　計器およびスイッチ

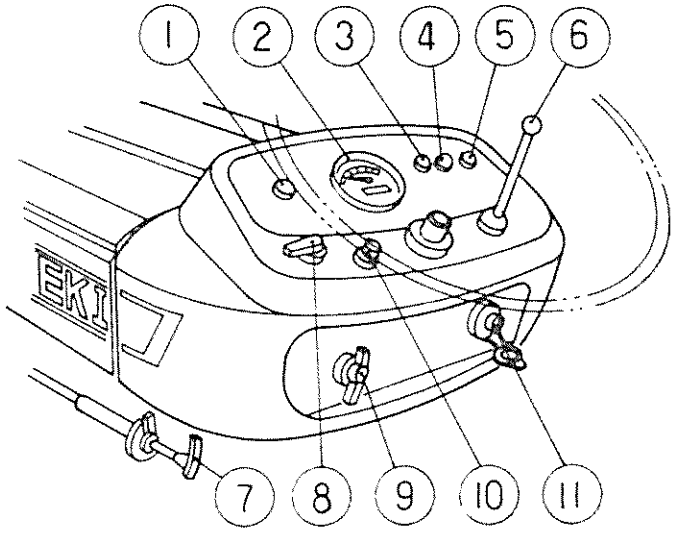
TS2810型．TS2510型．TS2210型



第1図

1	水温計	6	ヒータシグナル	11	シガレットライタ
2	オイルランプ	7	スロットルレバー	12	ヒューズボックス
3	チャージランプ	8	ウインカスイッチ	13	作業灯スイッチ
4	アワーメータ	9	ホーンボタン	14	スタータスイッチ
5	フューエルパイロットランプ	10	ストップボタン	15	キースイッチ

ＴＳ１９１０型．ＴＳ１６１０型



第２図

1	ヒータシグナル	5	水温ランプ	9	スタータスイッチ
2	アワーメータ	6	スロットルレバー	10	ホーンボタン
3	オイルランプ	7	ストップボタン	11	キースイッチ
4	チャージランプ	8	ウインカスイッチ		

● キ ー ス イ ッ チ

キ ー ス イ ッ チ は，スタータスイッチと分離しており，キーは「ＯＦＦ」の位置で抜き差しができ，他の３ケ所の位置で次の働きがあります。

- 「ＯＮ」位置

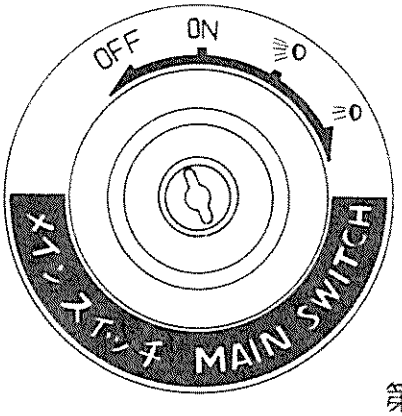
運転中の位置で電源スイッチが入った状態です。

- 「≡D」位置

ヘッドランプ上向き

- 「≡D」位置

ヘッドランプ下向き



第３図

注意

- 運転中にキーを「ＯＦＦ」位置にしてはいけません。
- 運転しないときは，必ずキースイッチのカバーをかぶせてください。

● アワーメータ

機種により形状が異なりますが，いずれもエンジンの回転数，積算運転時間および走行速度（Km／h）が表示できるようになっています。

● ストップレバー

エンジンを低速回転にしてからこのレバーを引くと，エンジンに吸い込まれる空気が遮断されて，エンジンが停止します。

⚠ 注意

・緊急やむを得ない場合を除き，高速運転時の使用はいけません。

● ホーンボタン

キースイッチが「ON．⥣ ．⥣」の位置でボタンを押すと，警笛が鳴ります。

● 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

(1) TS2810型．TS2510型．TS2210型

運転中，水温計の針が70度～108度の間にあるときは，エンジンの温度および冷却装置が正常な状態であることを示します。

(2) TS1910型．TS1610型

水温が上昇すると，パイロットランプが点灯します。

このランプが点灯したら，エンジンがオーバヒートしますので，ただちに作業を中止し，エンジンを低速回転に戻して冷却してください。

水温が下がると，パイロットランプは自動的に消えます。

⚠ 注意

・作業中，異状に温度が上昇するときは冷却系統を点検してください。

● スタータスイッチ

スタータスイッチは右の図の様な動きをし，次の働らきをします。

- 「始　動」

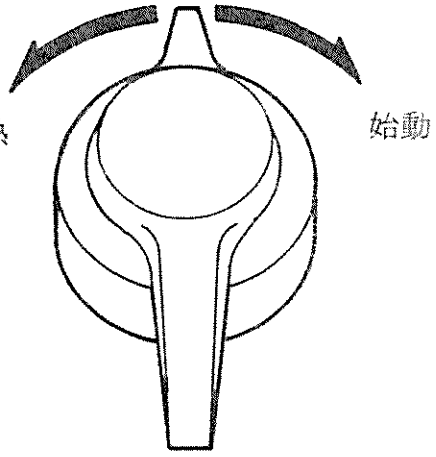
  スタータスイッチを右に回すとエンジンが始動します。

  手をはなすとスイッチは元にもどります。

- 「予　熱」

  スタータスイッチを左に回すと予熱回路に電流が流れ，燃焼室が予熱されます。

  手をはなすとスイッチは元にもどります。



スタータ・スイッチ

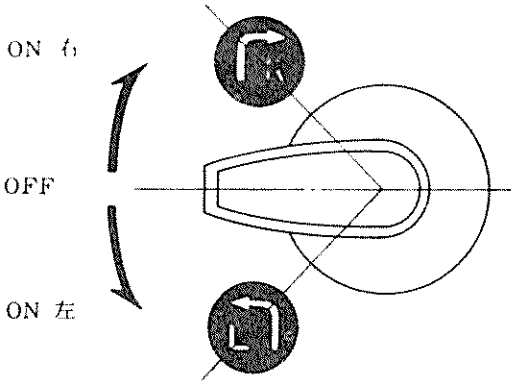
第4図

● ヒーターシグナル

エンジンのグロープラグの予熱状態を示すもので，スタータスイッチを左に回して，始動に適当な温度になったときに赤熱します。

● ウインカスイッチ

ウインカスイッチは点滅式方向指示器で，水平位置では点灯しない状態です。



ウインカ・スイッチ

第5図

(L)方向にレバーを回すと

左側ウインカーが点滅します。

(R)方向にレバーを回すと

右側ウインカーが点滅します。

● チャージランプ

緑色のランプでＴＳ２８１０，ＴＳ２５１０，ＴＳ２２１０型はアワーメータの中に装備されています。

ＴＳ１９１０．ＴＳ１６１０型は赤色のランプでメータの外に配置されています。キースイッチが「ＯＮ， ，」の位置で点灯し，エンジン運転中は消えて充電が正常におこなわれていることを示します。

● オイルランプ

赤色のランプでＴＳ２８１０，ＴＳ２５１０，ＴＳ２２１０型はアワーメータの中に装備されています。

ＴＳ１９１０，ＴＳ１６１０型はメータの外に配置されています。キースイッチが「ＯＮ，，」の位置で点灯し，エンジン運転中は消えてエンジンオイルが正常に循環されていることを示します。

● フューエルパイロットランプ

赤色のランプで燃料が残り少なくなると点灯します。

点灯時の残料は機種により異なりますが，詳細については次の通りです。

ＴＳ２８１０型　　約５ℓ

ＴＳ２５１０型　　約５ℓ

ＴＳ２２１０型　　約３ℓ

ＴＳ１９１０，ＴＳ１６１０型はパイロットランプがありません。

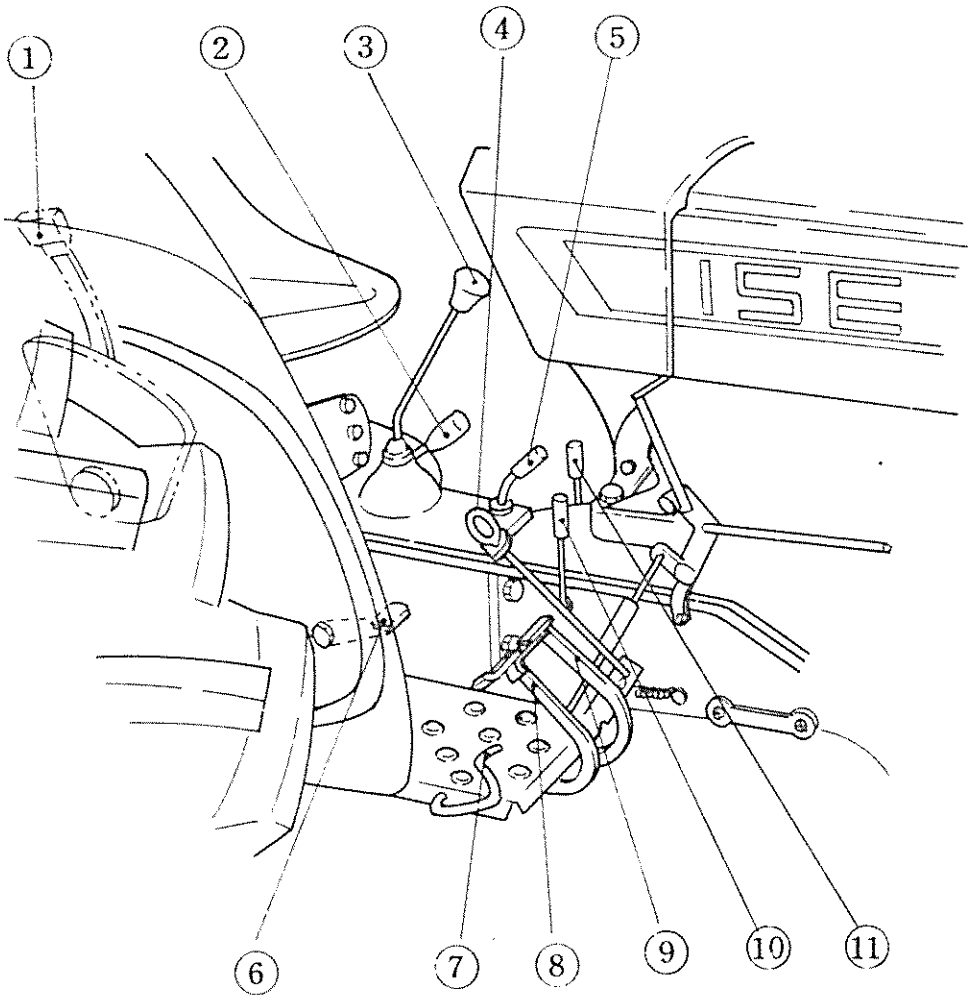
燃料タンク側面のゲージで確認してください。

● ヒューズボックス

ＴＳ２８１０，ＴＳ２５１０，ＴＳ２２１０型はヒューズボックスがありますがTS1910，TS1610型は配線内に組み込まれています。

2　レバーおよびペダル

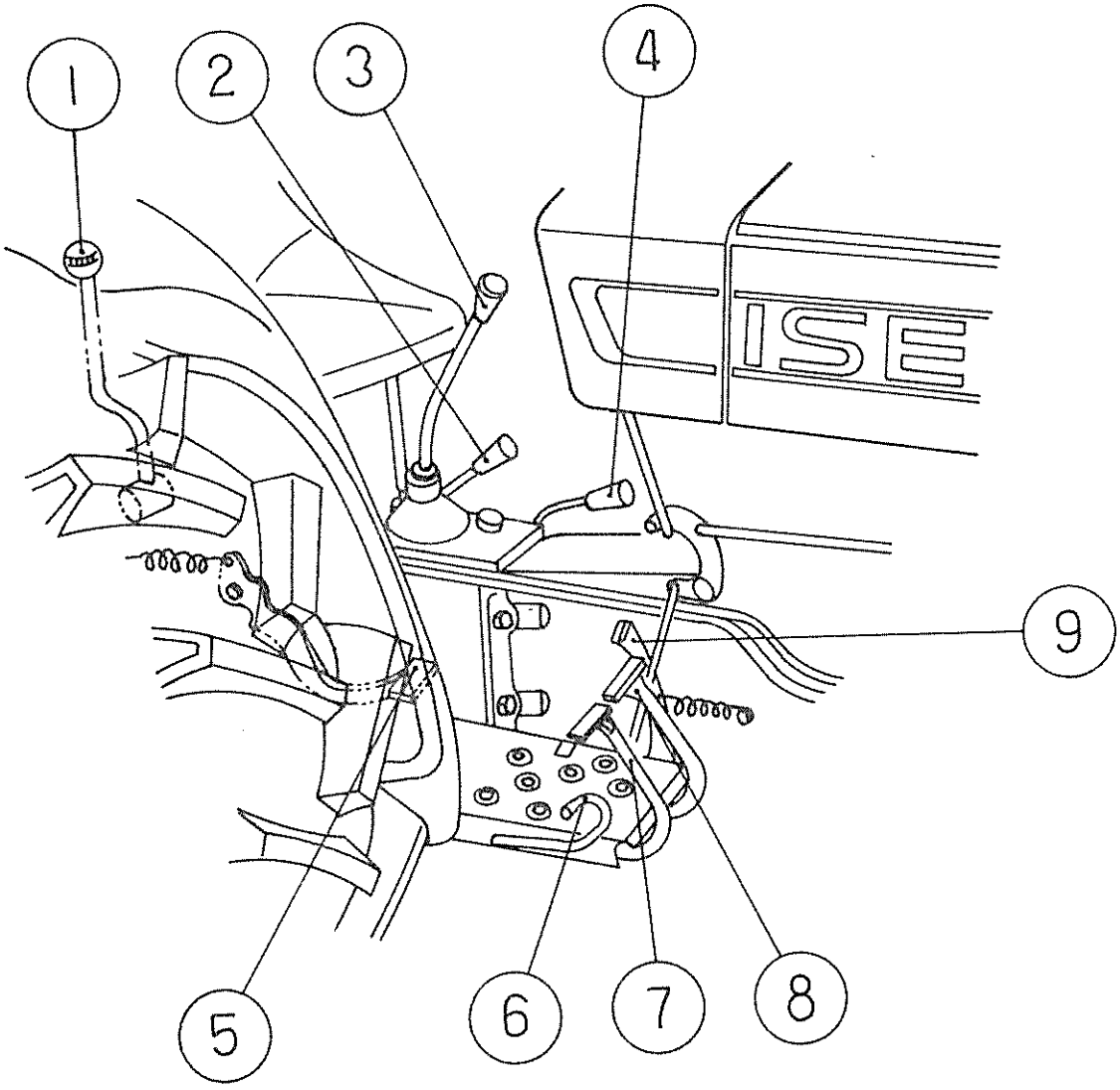
ＴＳ２８１０型．ＴＳ２５１０型．ＴＳ２２１０型



第６図

1	油圧コントロールレバー	7	アクセルペダル
2	PTOチェンジレバー	8	ブレーキペダル（右）
3	メインチェンジレバー	9	ブレーキペダル（左）
4	パーキングレバー	10	四駆チェンジレバー（Ｆ型のみ）
5	サブチェンジレバー	11	クリープレバー（Ｌ型のみ）
6	デフロックペダル		

ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型



第７図

1	油圧コントロールレバー	6	アクセルペダル
2	ＰＴＯチェンジレバー	7	ブレーキペダル（右）
3	メインチェンジレバー	8	ブレーキペダル（左）
4	サブチェンジレバー	9	パーキングレバー
5	デフロックペダル		

● メインチェンジレバー

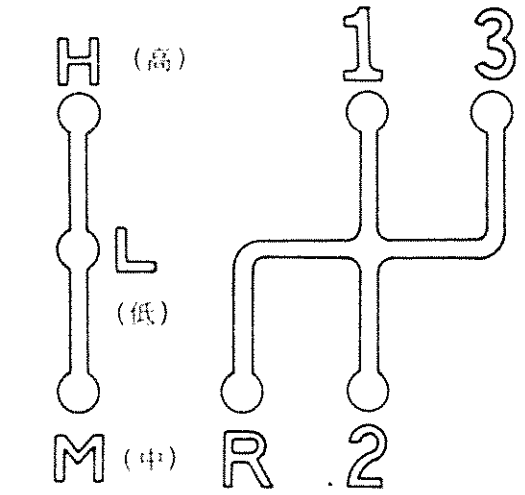
メインチェンジレバーは前進3段後進1段の変速位置があり，サブチェンジレバーと併せて前進9段，後進3段の変速ができます。

● サブチェンジレバー

低．中．高の3段変速ができます。

● ＰＴＯチェンジレバー

ＰＴＯ軸の回転は，ＰＴＯチェンジレバーで4段変速できます。



第8図

● スロットルレバー

エンジン回転を制御します。

レバーを手前に引くと高速になり，前方に押すと低速になります。

● パーキングレバー

駐車するときに使用してください。

左右のブレーキペダルを連結し，踏み込んだ状態でレバーを引き，ペダルから足をはなすとパーキングブレーキがかかります。

● 四駆チェンジレバー

ＴＳ２８１０Ｆ型では，四駆チェンジレバーがあり，前輪の駆動「入」「切」ができます。

● クリープレバー

Ｌ型仕様で，超低速走行用です。

メインチェンジレバー，サブチェンジレバーとの併用により，前進１８段，後進６段の変速ができます。

● クラッチペダル

クラッチペダルをいっぱい踏み込むと，クラッチが切れます。

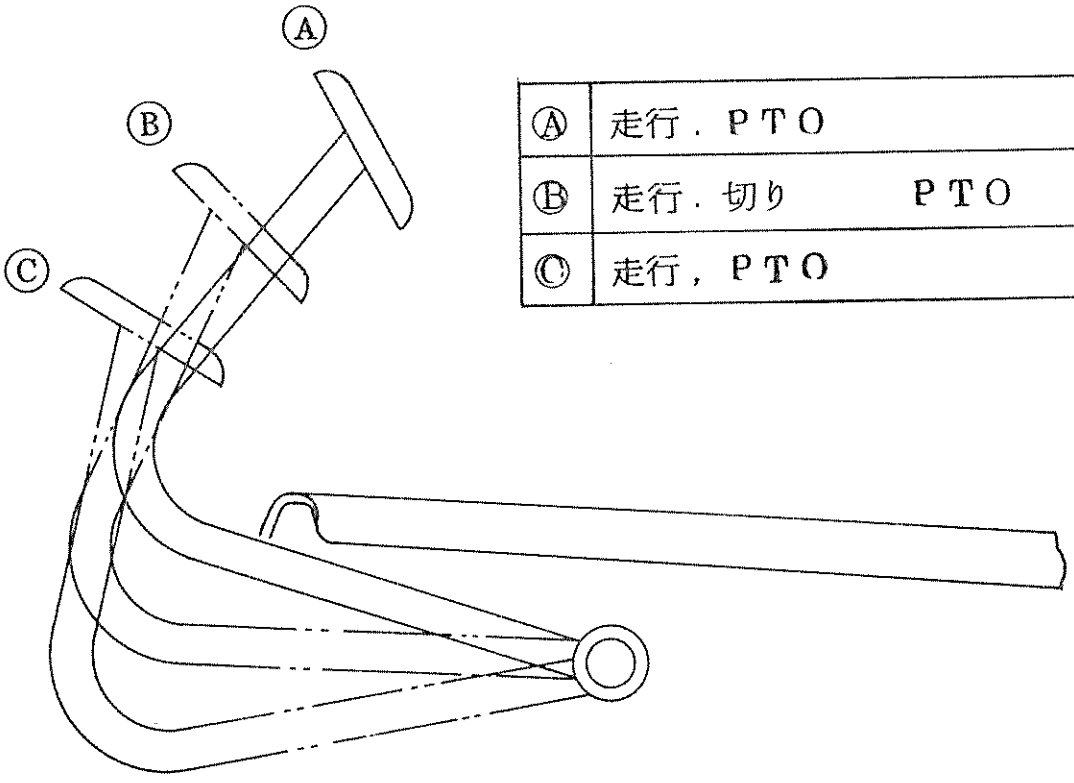
チェンジレバーを希望の位置に入れ，クラッチペダルからゆっくりと足をはなしてゆくと，クラッチがつながります。

注意

ダブルクラッチ仕様型式

ダブルクラッチ仕様のクラッチペダルは，次の二段踏み込み式です。

- クラッチペダル一段踏み込む　　走行停止，ＰＴＯ回転
- クラッチペダル二段踏み込む　　走行停止し次にＰＴＯ停止



Ⓐ	走行．ＰＴＯ	入り
Ⓑ	走行．切り　　ＰＴＯ	入り
Ⓒ	走行，ＰＴＯ	切り

第９図

● デフロックペダル

デフロックとは差動装置を固定し，左右の車輪回転を同じにする装置です。

後輪がスリップする時や，一方の車輪が空転した場合に使用します。

ペダルを踏み込むと，デフロックがかかり，離すと解除されます。

⚠ 注意

- 路上走行中および高負荷，高速運転中は危険ですから絶対に使用してはいけません。
- 両輪の回転差が大きい場合は，一度クラッチを切ってから。

● アクセルペダル

スロットルレバーと同様，エンジン回転を制御することができます。

主として路上走行の場合に用いると便利です。

● ブレーキペダル

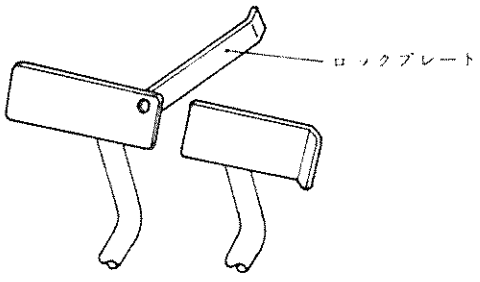
ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。

左側を踏み込むと左後輪に，右側を踏み込むと右後輪にブレーキがかかります。

ブレーキペダルには左右を連結させるロックプレートがついています。

路上走行時は必ず左右ペダルをロックプレートで連結させてください。

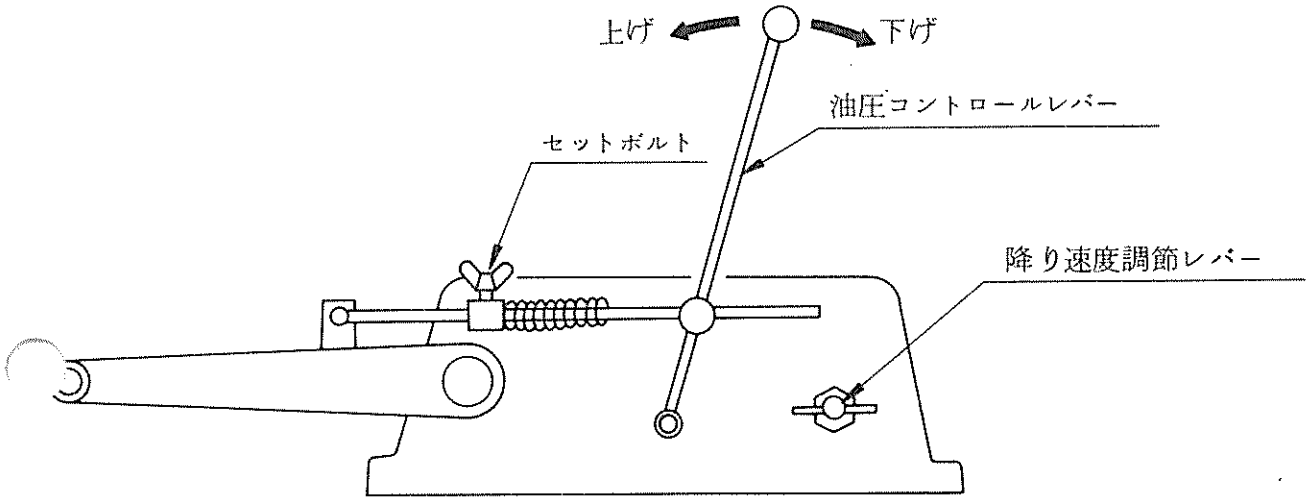
左右ブレーキは必ず同時に利くように定期的に点検してください。



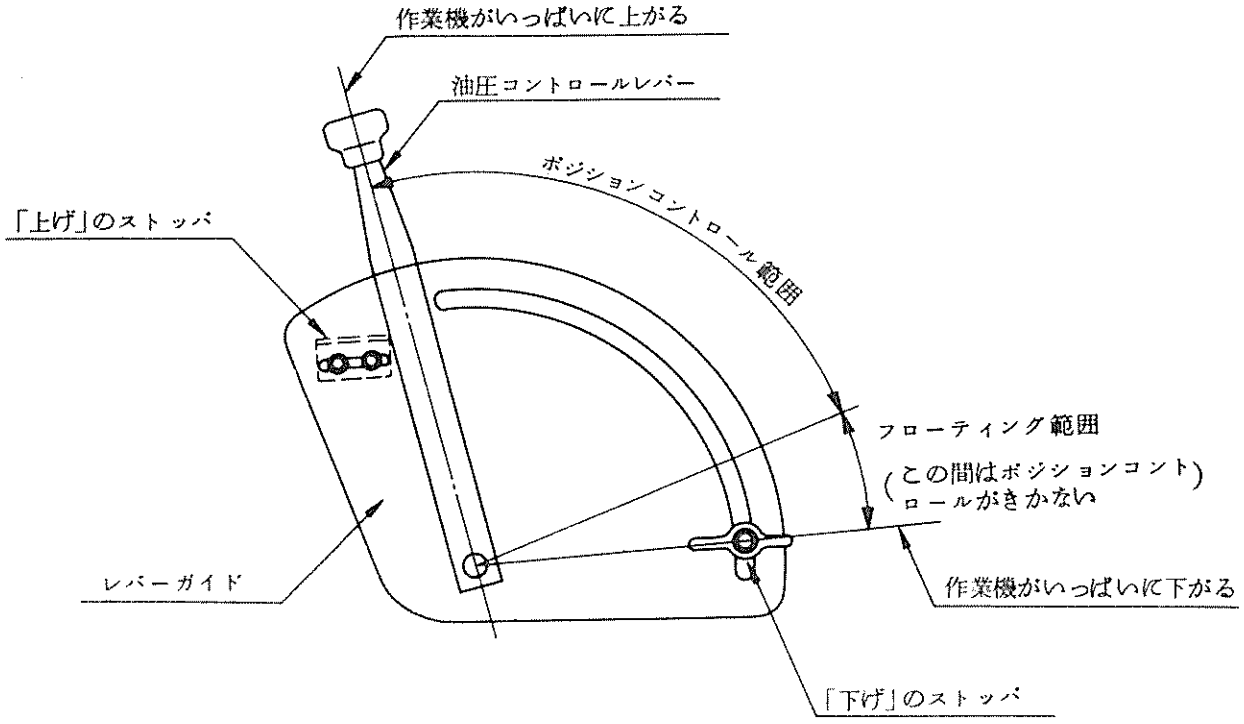
第１０図

3　油圧装置の取扱い

● ＴＳ１９１０型，ＴＳ１６１０型（ポジションコントロールなし）



● ＴＳ２８１０型，ＴＳ２５１０型，ＴＳ２２１０型，ＴＳ１９１０型及びＴＳ１６１０型のポジションコントロール付



第１１図

● 油圧コントロールレバー

油圧コントロールレバーは，作業機を上下させる時に操作します。
後方に引けば「上げ」になり，油圧により作業機は上がります。
前方に倒せば「下げ」になり，作業機は自重によって下がります。

⚠ 油圧コントロールレバー操作の注意

- エンジン停止後に，作業機が降りていて，油圧コントロールレバーが「上げ」位置に操作されていた場合，エンジン始動と同時に作業機が上がり始めるので充分注意してください。
- 作業機の上げ下げは，エンジン回転中に行ない，エンジン停止後は油圧コントロールレバーを操作しないようにしてください。また，トラクタの格納，作業中トラクタを離れる時には，作業機を降ろしてからエンジンを停止させてください。

⚠ ＴＳ１９１０型，ＴＳ１６１０型ポジションコントロールの取扱いについて

- ＴＳ１９１０，ＴＳ１６１０型ポジションコントロールは，エンジンが停止すると，油圧コントロールレバーを操作しても，作業機が動かない構造になっています。
作業機が上がったままの状態で，油圧コントロールレバーが「下げ」位置にあると，エンジン始動と同時に作業機が降下し危険です。
エンジン始動時は，必ず作業機の位置と，油圧コントロールレバーの位置を確認してください。

● ＴＳ１９１０，ＴＳ１６１０型（ポジションコントロールなし）のセットボルトの調節は，油圧コントロールレバーが自動的に「中立」に戻るようにセットしてください。

● ポジションコントロール付油圧コントロールレバーの調節

油圧コントロールレバーを「上げのストッパ」にあたるまで操作した時に，「ピー」という異音が発生した時には，「上げのストッパ」を油圧コントロールレバーに近づくように移動させ異音が聞こえなくなった位置で，セットしてください。

● 「下げのストッパ」の使用方法

- 作業の始めに，作業機が希望の作業位置になるように「下げのストッパ」を調節し固定してください。
- 作業時には，油圧コントロールレバーを「下げのストッパ」にあたるまで動かすことにより，同じ作業位置が得られます。

● 降り速度調節レバー

作業機の種類，作業の状況によって，作業機の降り速度を調節してください。

• ロータリ作業	降り速度を遅く
• プラウ作業	降り速度を速く
• 路上走行，耕うん刃交換時	ロック

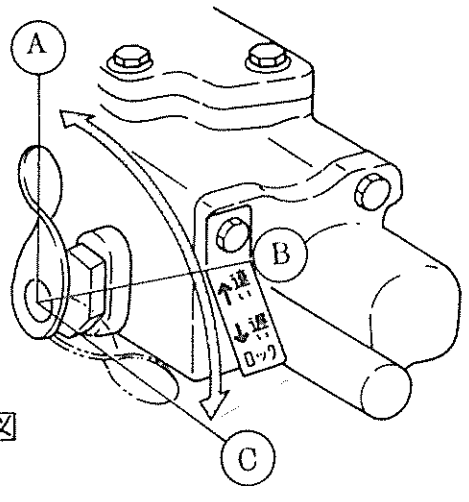
降り速度調節レバーは，機種により異なりますが，詳細は次の通り

(1) ＴＳ２８１０型，ＴＳ２５１０型

Ⓐ 降り速度　速い

Ⓑ 降り速度　遅い

Ⓒ 降り速度　ロック



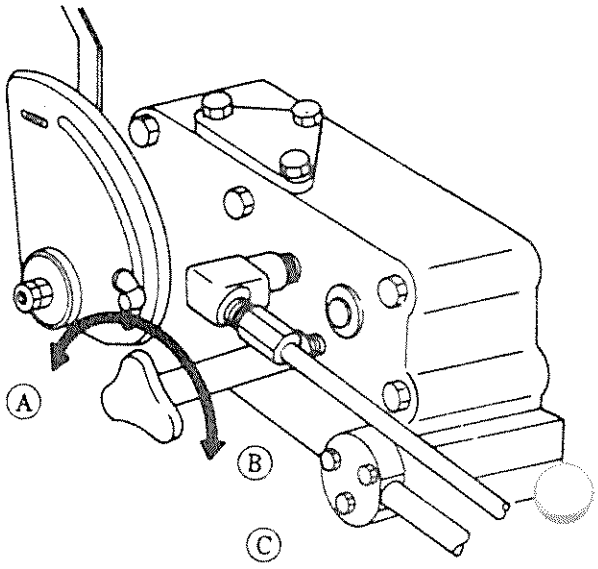
第１２図

(2)　ＴＳ２２１０型

Ⓐ　降り速度　　速い

Ⓑ　降り速度　　遅い

Ⓒ　降り速度　　一杯締め
　　込みロック

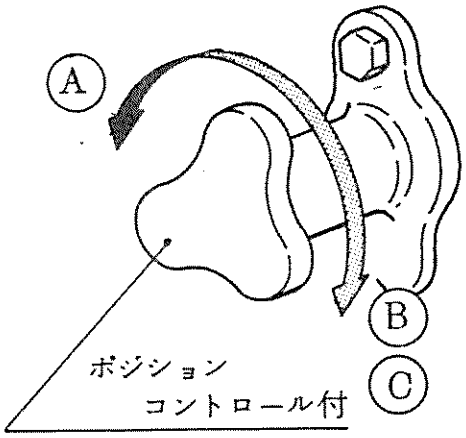


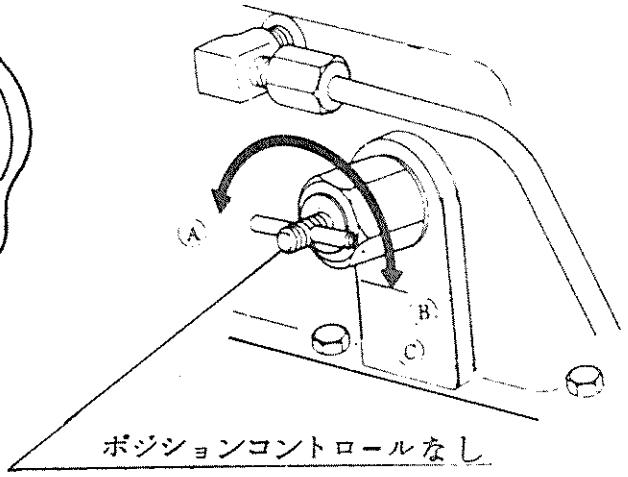
(3)　TS1910型，TS1610型

Ⓐ　降り速度　　速い

Ⓑ　降り速度　　遅い

Ⓒ　降り速度　　一杯締め
　　込みロック





注　　意

- 路上走行時は，必ず降り速度調節レバーをロックしてください。
  ＴＳ１９１０型，ＴＳ１６１０型のポジションコントロールなしの機械にはこのほかにロックステーをかけ二重に固定してください。
- 耕耘刃の交換，草，ワラなどの除去，作業機点検時などのときは，安全のためエンジンを停止し，必ず降り速度調節レバーをロックしてください。
- 油圧装置は精密な構造になっていますから，取扱いには充分注意しオイルは必ずキセキ指定の油圧作動油を使用してください。
  また，オイルには異物が混入しないように注意してください。

6　運転の仕方

注　　意

運転前には必ず仕業点検（３３頁）を参照し，注意事項を守ってください。

1　始　　動

(1) メインチエンジレバー，およびＰＴＯチエンジレバーが中立の位置にあること，また油圧コントロールレバーが，作業機が上がっている時は，「上げ」位置に，下がっている時には「下げ」位置になっていることを必ず確認してください。

(2) ストップ・ボタンを前に押しもどし

(3) スロットル・レバーを中程まで引いてください。

(4) クラッチ・ペダルを踏み込んで，クラッチを切ります。

注　　意

・ヰセキ・トラクタは安全のため，クラッチ・ペダルを踏み込まないと始動しません。

(5) キー・スイッチにキーを差し込み「ＯＮ」位置にします。
このとき，オイル・ランプ，チャージランプが点灯しているか確認してください。

(6) スタータ・スイッチを左に回わしてエンジンを予熱し，ヒータ・シグナルが赤熱したら手をはなして元の位置にもどしてください。
ヒーターシグクルは約２０秒（寒冷時は約４０秒）で赤熱します。
気温の高いときやエンジンが暖まっているときは，この操作の必要ありません。

(7) スタータスイッチを右に回わすと，エンジンが始動します。
始動したらただちにスタータスイッチから手をはなしてください。

8) 始動後はアイドリング回転で5～10分間程度の暖機運転をおこないましょう。

注意

- スタータスイッチの一回の操作は10秒程度とし，始動しないときは10秒ほど休止してから，再び同じ操作をくり返してください。
- エンジンが始動しているにもかかわらずスタータを回わし続けたり，運転中にスタータを回わしてはいけません。
- 外気温度の低いときは，バッテリを機体からはずして，室内など暖かな場所に保存しておくと効果があります。

2 エンジン停止

(1) スロットルレバーを前方いっぱいに押しもどして，エンジンを低速回転にします。

(2) ストップボタンを引くとエンジンが停止します。

(3) キースイッチを「OFF」にします。

注意

- エンジンを高速回転のまま停止させてはいけません。
- 長時間の運転後はアイドリング回転で5分間程度無負荷運転してからエンジンを停止してください。

3 基本運転

● 発　進

(1) クラッチペダルを踏み込んでクラッチを切ります。

(2) チェンジレバーを希望の速度に入れ

(3) パーキングレバーをはずします。

(4) スロットルレバーまたはアクセルペダルで徐々にエンジン回転を上げながら

(5) クラッチペダルの踏み込みを，静かにはなしてゆくと，トラクタは動き始めます。

(6) 速度調節は，スロットルレバーまたはアクセルペダルでおこなってください。

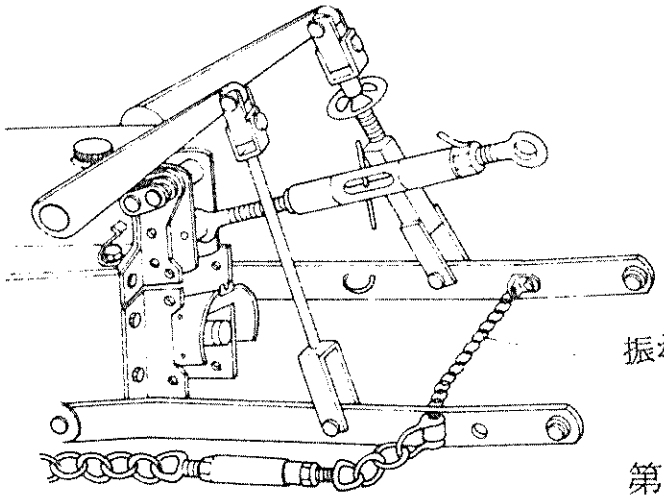
注意

・路上走行中は必ず左右ブレーキペダルを連結してください。
速い速度で片ブレーキを踏むと危険です。

・走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。

・３点リンクを装着して走行するときは，左右のロアーリンクをチェーンでつなぎ，振れ止めをしてください。

・ＴＳ２８１０Ｆで路上走行中は，タイヤの摩耗防止の為，必ず前輪を「切」にしてください。



第１５図

● 制動および停止

(1) スロットルレバー又はアクセルペダルを操作し，エンジンを低速回転にします。

(2) クラッチペダルを踏み込んでクラッチを切り，同時にブレーキペダルを踏み込むと，トラクタは停止します。

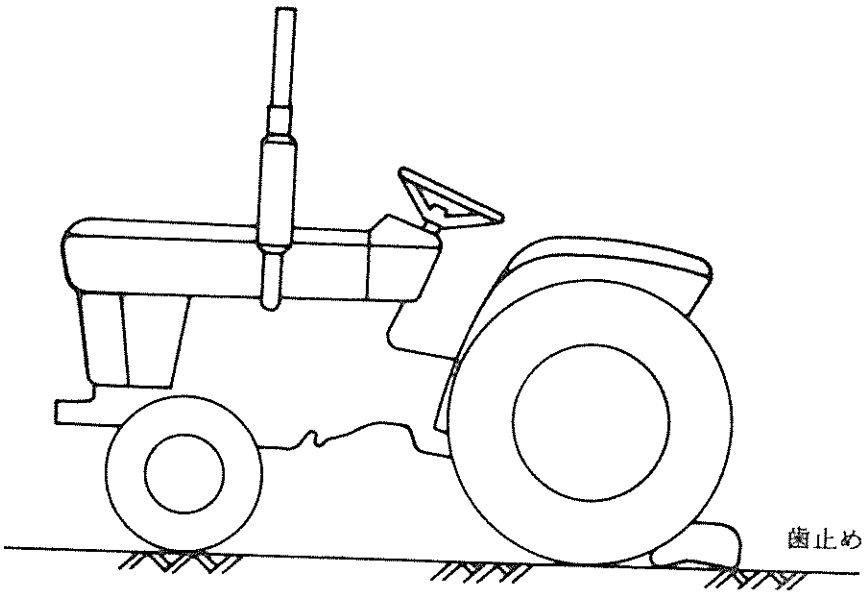
● 駐　　車

(1) 左右のブレーキペダルが連結されていることを確認し，ペダルを踏み込んでパーキングレバーを引きブレーキをかけます。

(2) メインチェンジレバーを中立にします。

⚠ 注意

- 必ずパーキングブレーキを忘れないようにしましょう。
- 坂道での駐車は，タイヤに歯止めをかけてください。



第１６図

● 変　　速

各チェンジレバーとも走行中に変速してはいけません。

必ず一担トラクタを停止させてから，変速してください。

ＰＴＯチェンジレバーは，回転停止を確認し変速してください。

● 旋　回

(1) 圃場での旋回は，左右のブレーキペダルを連結しているロックプレートをはずします。

(2) ハンドルを切ると同時に旋回しようとする側のブレーキペダルを踏み込んでください。小回わりができます。

注意

- 旋回するときは，必ずエンジン回転を落とし，必要な場合には変速を低速にしてから，旋回してください。

● 坂道での運転

(1) 急な上り坂での発進

① クラッチペダルを踏んでクラッチを切ります。

② チェンジレバーを希望の速度に入れます。

③ ブレーキペダルを踏み込みます。

④ スロットルレバーでエンジン回転を中速にしてください。

⑤ クラッチペダルの踏み込みを静かにはなしてゆき，半クラッチの状態にします。

⑥ 同時にブレーキペダルの踏み込みを少しゆるめ

⑦ スロットルレバーを一層引いてエンジンの回転を上げながら，ブレーキペダル をはなすと同時にクラッチペダルから足を静かにはなすと，トラクタは発進します。

(2) 下り坂での運転

下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。

4　運転中の作動点検

注意

・運転中は各部が円滑に作動しているかどうか，たえず注意しましょう。

● エンジン冷却水温度

冷却水温度は７０度～１０８度が適温です。

運転中，常に指針に注意し，水温が異状に上昇するときは，冷却系統を

を点検してください。ＴＳ１６１０，ＴＳ1910 はパイロットランプ

でわかります。

● オイルランプ

運転中，オイルランプが点灯しているときは，潤滑系統の故障です。

ただちに運転を停止し，点検してください。

● チャージランプ

運転中，チャージランプが点灯しているときは，充電されていません。

充電系統の故障ですから点検してください。

原因がわからないときはサービス工場で点検してもらいましょう。

7 格　納

1 日常の格納

日常の格納および短期間の格納は，次の処置をしてください。

- トラクタはきれいに清掃しておきましょう。特に代掻作業などの後はきれいに洗車してください。

注意

・電装品には圧力水がかからないよう注意してください。

- 燃料タンクは満タンにしておきましょう。
- 作業機は必ずおろしてください。
- 格納はできる限り屋内にしましょう。外に置く場合はシートをかけてください。
- 厳寒時はバッテリをはずし，暖かい室内などに保管すると効果があります。
- 冷却水は次の注意をしましょう。

注意

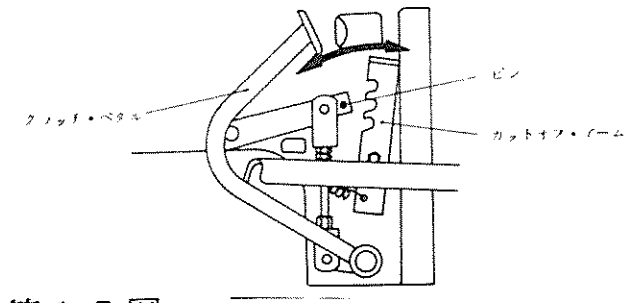
・外気温度が0℃以下になるときは，エンジン凍結割れ防止のため，不凍液を入れるか又は冷却水を完全に抜いてください。

2 長期格納

トラクタを2～3ケ月以上も使用しないときはきれいに清掃し，次の処置をしてください。

- ラジエータの冷却水を排出してください。
  ラジエータ左側面の排水コックを抜き，ラジエータキャップをはずして完全に冷却水を抜いてください。
  排水後，ハンドルに「水なし」と書いた札をかかげておきましょう。
- よごれたエンジンオイルを抜きとり，新しいオイルを入れ，５分間ほどエンジンを運転して各部にオイルをゆきわたらせます。
- タイヤの空気圧は標準よりも少し多目に入れてください。
- 各部の給油を必ずおこなってください。
  錆びやすい部分には，グリースかオイルをぬっておきましょう。
- 各部のボルトやナットのゆるみを点検し，ゆるんでいれば締めてください。
- バランスウエイトなどは必ずはずしておきましょう。
- 作業機はおろしてください。
- 格納場所は雨のかからない乾燥した場所を選び，シートなどでおおってください。
- バッテリはトラクタからはずして，補充電を行ない，液面を正しく調整してから，日光の当らない乾燥した場所に保管してください。
- エンジン防錆のため，１ケ月に1回，１０００～１５００r.p.mの中速で５～１０分ほど運転してください。
- クラッチは完全に切れた状態にしておきましょう。

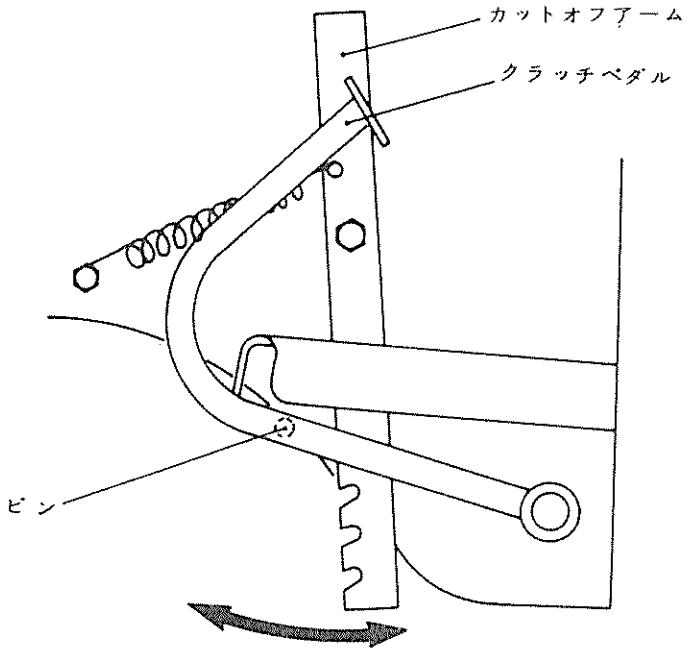
(1) ＴＳ２８１０型．ＴＳ２５１０型
クラッチペダルを踏み込み，カットオフアームをピンに引っかけるとクラッチは切れた状態になります。



第１７図

(2) ＴＳ２２１０型

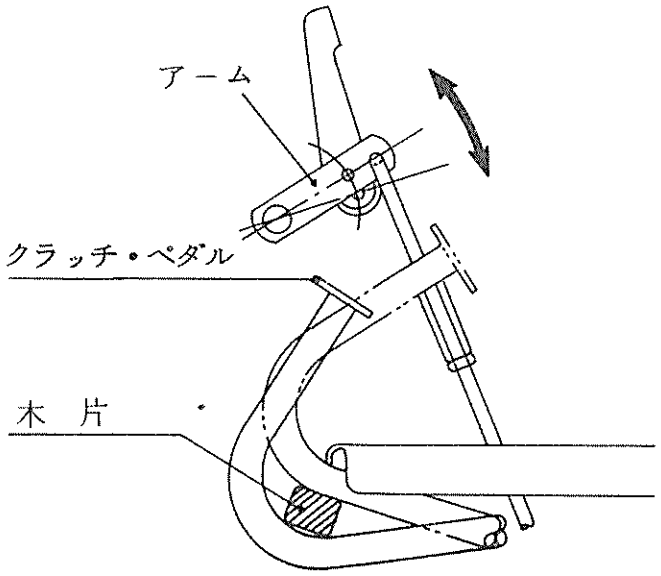
クラッチペダルを踏み込み，カットオフアームをピンに引っかけるとクラッチは切れた状態になります。



第１８図

(3) ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型

クラッチペダルを踏み込み，アームに付属の木片をかませておく。



第 19 図

3　長期格納後の使用

長期格納後の再使用は，次の注意をしてください。

- 仕業点検を確実におこないましょう。
- エンジンの寿命，性能を保つため，なじみ運転をしてください。

  なじみ運転の要領は次の通りです。

  (1) ストップボタンを引きインテークシャッタを閉じます。

  (2) スタータを回わして，オイルランプが消灯してからも約１０秒ほど回わします。

  (3) この操作を２～３回繰り返したあとエンジンを始動し，アイドリング回転で３０分ほど運転してください。

8　冬期の取扱い

冬期には特別の注意が必要です。冬の準備は早めにしましょう。

1　エンジンオイル

気温の低下とともにエンジンオイルは硬くなります。

冬期は低粘度のエンジンオイル（ＳＡＥ１０Ｗ）と交換してください。

ヰセキディーゼルエンジンオイル

- 夏期（２５℃以上）　ＳＡＥ３０
- 春秋（０℃～２５℃）　ＳＡＥ２０
- 冬期（０℃以下）　ＳＡＥ１０Ｗ

｝又は１０Ｗ／３０

2　不凍液

冷却水の凍結によるエンジンの破損を防止するため，降霜のころになったら早めに冷却水に不凍液を混入してください。

- 不凍液を入れる前によくラジエータ内部を洗浄してください。
- 不凍液の調合は各メーカによっても，気温によっても異なりますので，使用の際は，使用量，使用方法などを，購入先メーカとご相談ください。
- 不凍液は水とよく混合し，注入してください。
- 不凍液の補給は，蒸発で冷却水がへったときには水だけ補給します。もれて少なくなったときは，同じ比率に混合したものを補給してください。
- 不凍液は塗料をとかしますから，ボディにこぼさないようにしましょう。

3　バッテリの手入れ

気温が低下するとバッテリの容量も低下し，また放電するほどバッテリ液の比重が減少します。

- 充電系統を点検整備して，いつも完全充電状態を保つようにしてください。
- 厳寒時はバッテリをはずし，暖かい室内などに保管すると効果があります。

4　雪路，凍結路の運転

雪路とか凍結路の走行は，スピードの出しすぎ，急加速，急ブレーキ，急ハンドルは危険ですから十分気をつけてください。

9　保守と点検・調整

1　仕業点検

主要仕業点検は次の通りです。詳しくは（４３～４４頁）の一覧表を参照してください。

● ボンネットを開けて

(1)　エンジン冷却水

キャップをはずして，口元まで入っているか点検し，点検後は確実にキャップを装着してください。

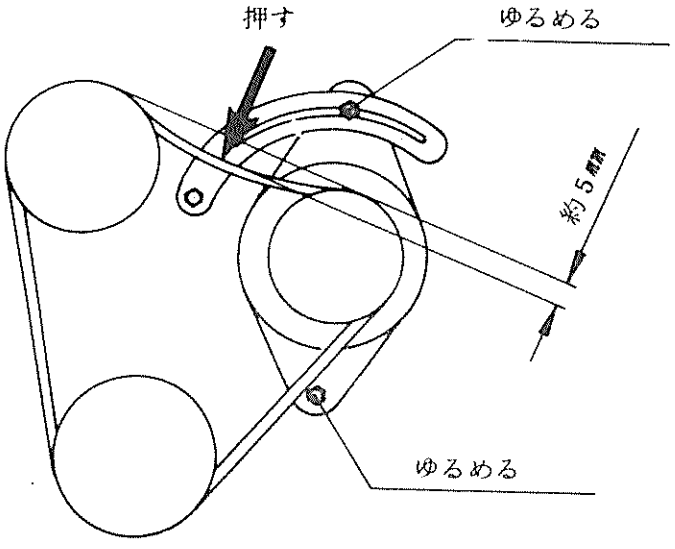
不足している場合はきれいな水を補給します。

注意

・冷却水は，わら，ごみ，泥などのはいった水や，塩水は絶対使用してはいけません。

(2)　ファンベルトの張り

プーリの中間を指で押して，ファンベルトのたわみが約５㎜になるように調節してください。



第２０図

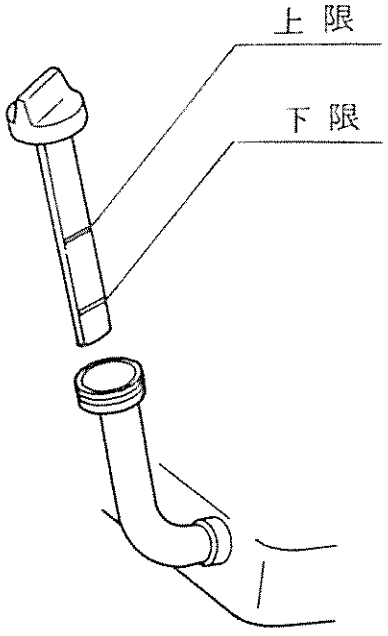
● 車の外から

(1) 各部のオイル点検

各部のオイル点検は，給油一覧表（４１～４２頁）を参照してください。

・エンジンオイル

エンジン左側のオイルレベルゲージにより，油量を点検してください。油量点検は，ゲージをネジ込まない状態で点検します。



第 21 図

・ミッションオイル

油圧オイル

各部のグリースアップ

仕業毎に点検しなくてもよいが，定期的に点検してください。

(2) 燃　　料

燃料は十分入っていますか。使い切らないうちに，早めに補給してください。

(3) 各部のゆるみ

ボルト・ナットのゆるみや，ピン類の脱落がないかどうか，点検してください。特に，かじ取り装置のボルト・ナットのゆるみ，および作業機装着用のピン類の脱落に注意してください。

● 足回わり

(1) タイヤ空気圧・損傷

タイヤ空気圧は，トラクタの性能，タイヤの寿命に大きく影響します。

空気圧の点検と同時に，タイヤの異状磨耗，き裂，損傷を点検してください。標準空気圧は（４４頁）を参照してください。

(2) ホイル締付ボルト

前，後輪共に確実に締まっているが，確認してください。

● 運転席での点検

(1) ステアリング

ステアリング系統にはなはだしい遊びや，ガタのないことを確認してください。遊びはホイールの外周で３０㎜程度が標準です。

(2) ブレーキ

左右のブレーキペダルが同時に効くことを確認してください。

ブレーキペダルの遊びは，１５～２０㎜が標準です。

(3) 電気系統

・パイロットランプ

オイル，チャージランプは正常に点灯し，消灯するかを確認してください。

・メータ

メータは正常に作動することを確認してください。

・ヘッドランプおよび作業灯

正常に点灯，消灯し，ヘッドランプは上目，下目の切換えができるか確認してください。

・ウインカランプおよびホーン

ウインカランプは正常に点滅し，ホーンは正常に鳴ることを，確認してください。

2 給　　油

● 主要給油ケ所

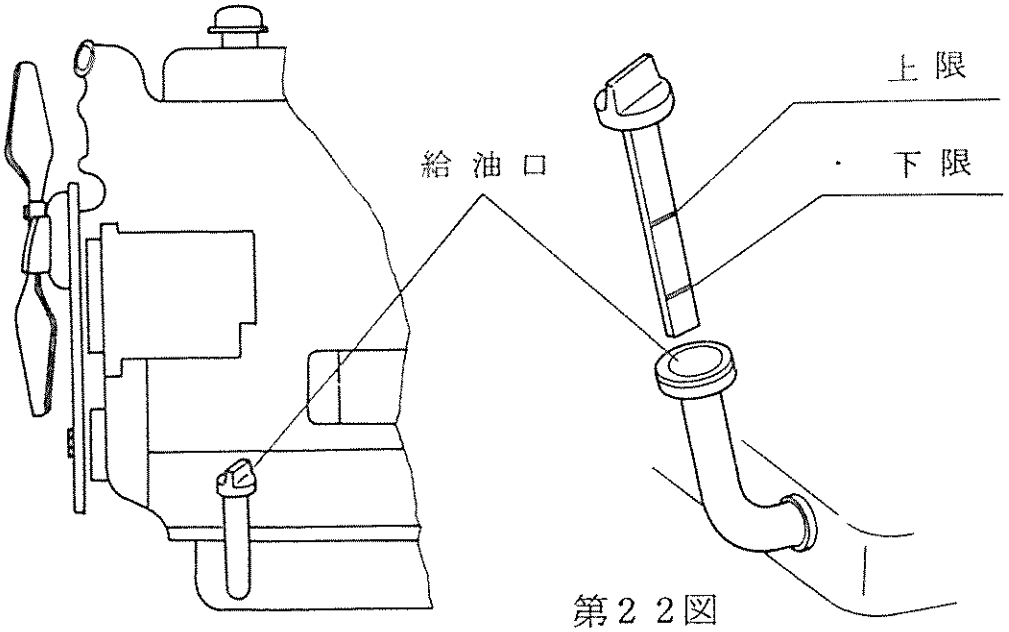
(1) エンジン

・エンジン本体

エンジン左側にあるレベルゲージにて油量を点検してください。

使用オイル

夏期（２５℃以上）	SAE30	又は10W/30
春秋（０℃～２５℃）	SAE20	
冬期（０℃以下）	SAE10W	



第２２図

※ドレンプラグは給油口の反対側にあります。

また四駆ではオイルパン下部に２ケ所あります。

注意

・使用オイルはヰセキ推奨のエンジンオイルをご使用ください。

・補給は必ず同質のオイルを使用してください。

● インジェクションポンプ

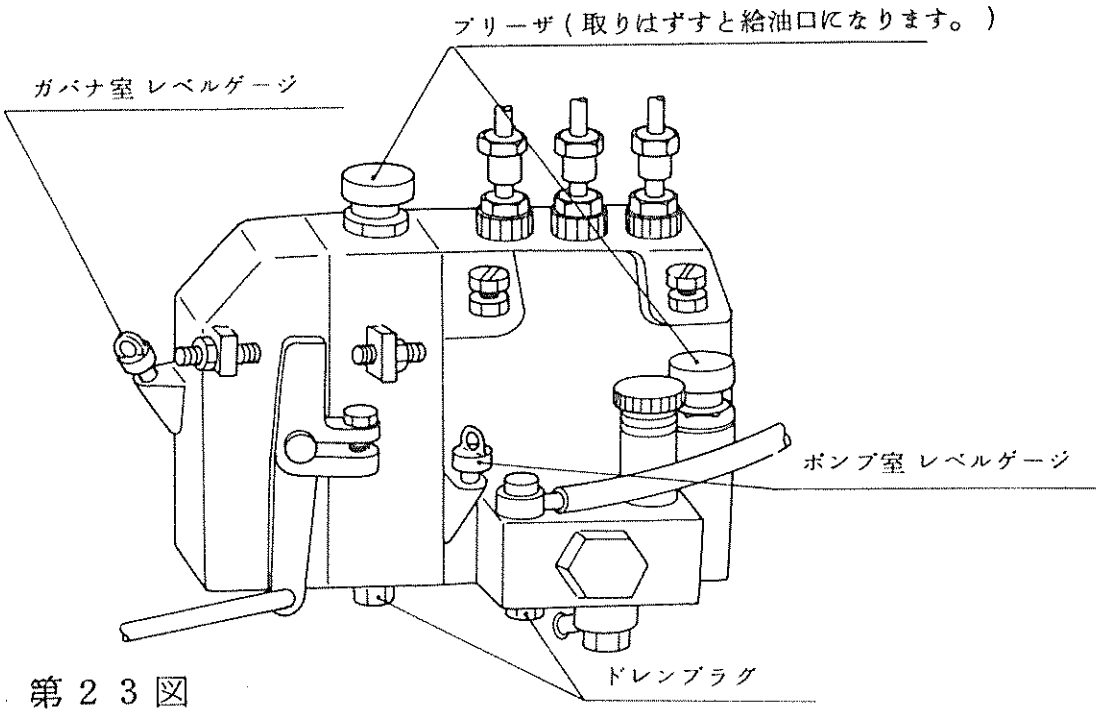
インジェクションポンプは機種により異なります。

注意

・使用オイルはヰセキ推奨のエンジンオイルをご使用ください。

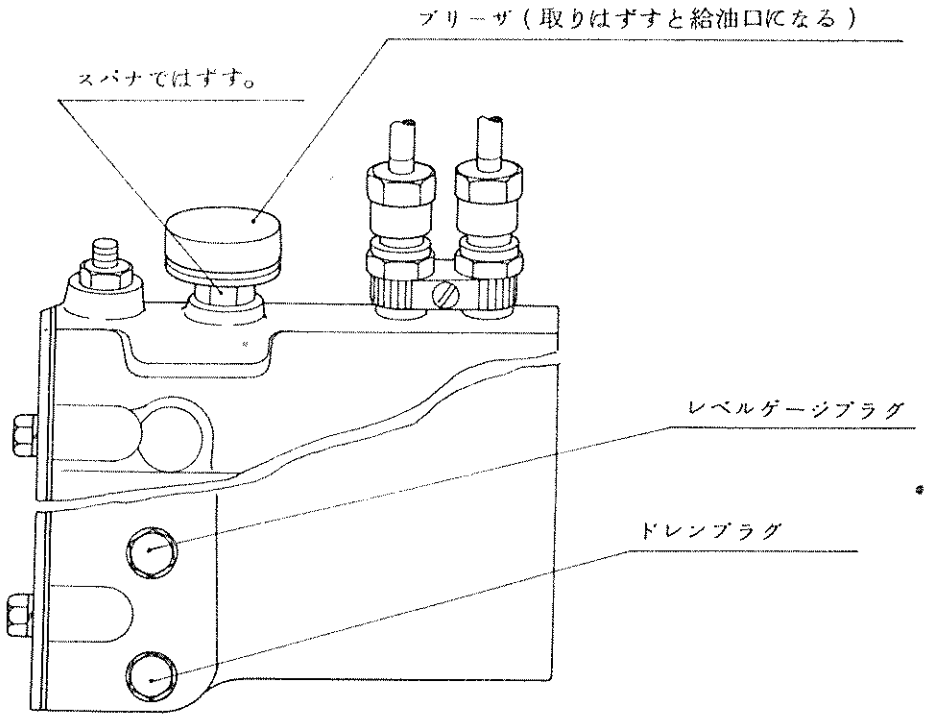
ＴＳ２８１０型

ＴＳ２８１０型のインジェクションポンプは，ガバナ室とポンプ室にわかれています。点検はレベルゲージでおこなってください。



第２３図

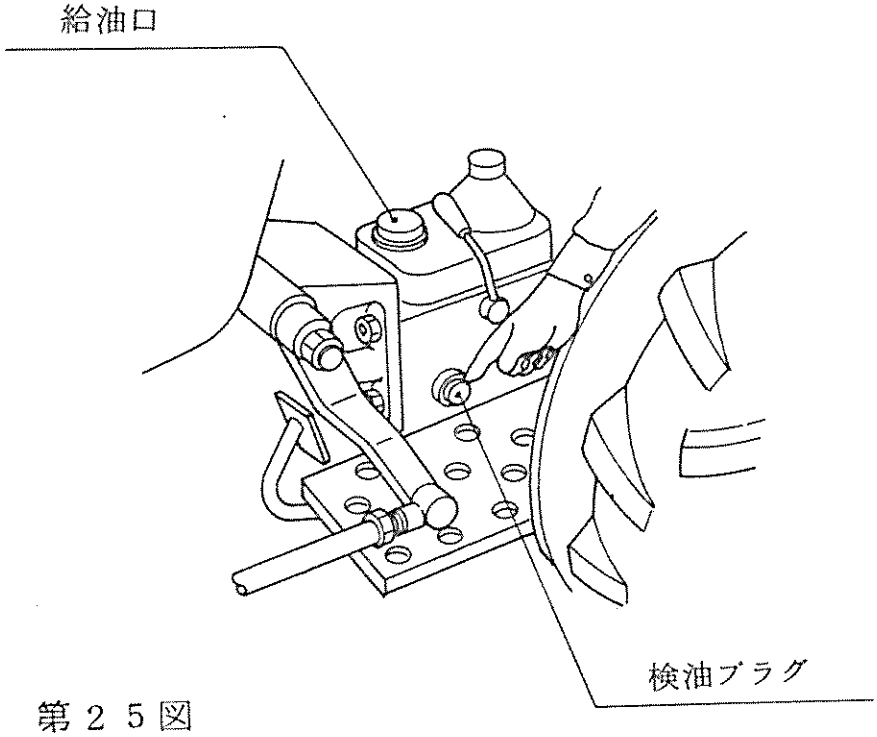
ＴＳ２５１０型・ＴＳ２２１０型・ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型。



第２４図

(2) ミッションオイル

ミッションオイルは，トランスミッションケースの左側面にある検油プラグを抜いて，そこからあふれ出るまで給油してください。



第２５図

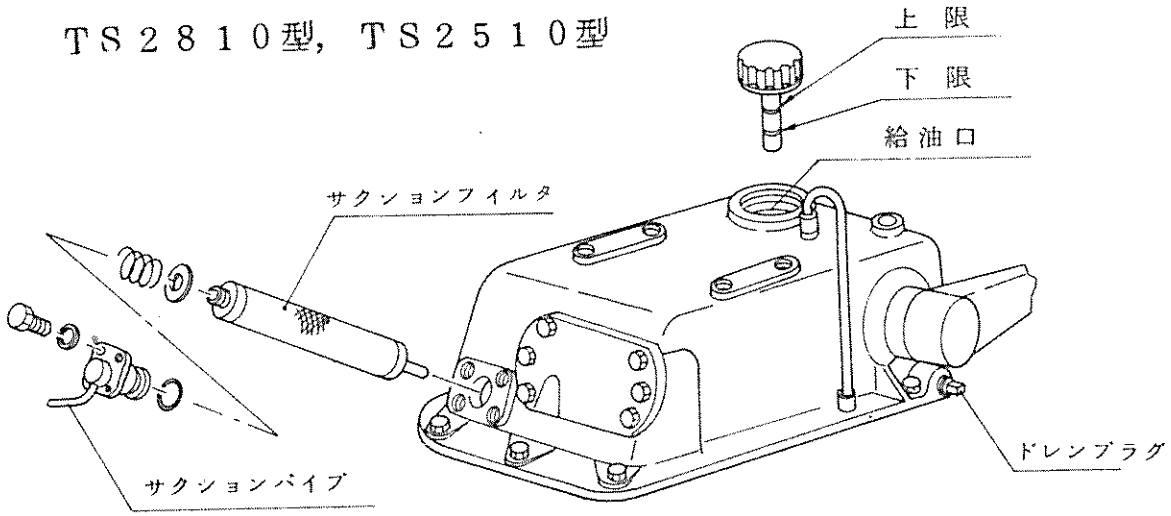
ドレンプラグはミッションケース下面後部にあります。

⚠ 注意

- 使用オイルは，キセキ推奨のギヤーオイル90#を使用してください。

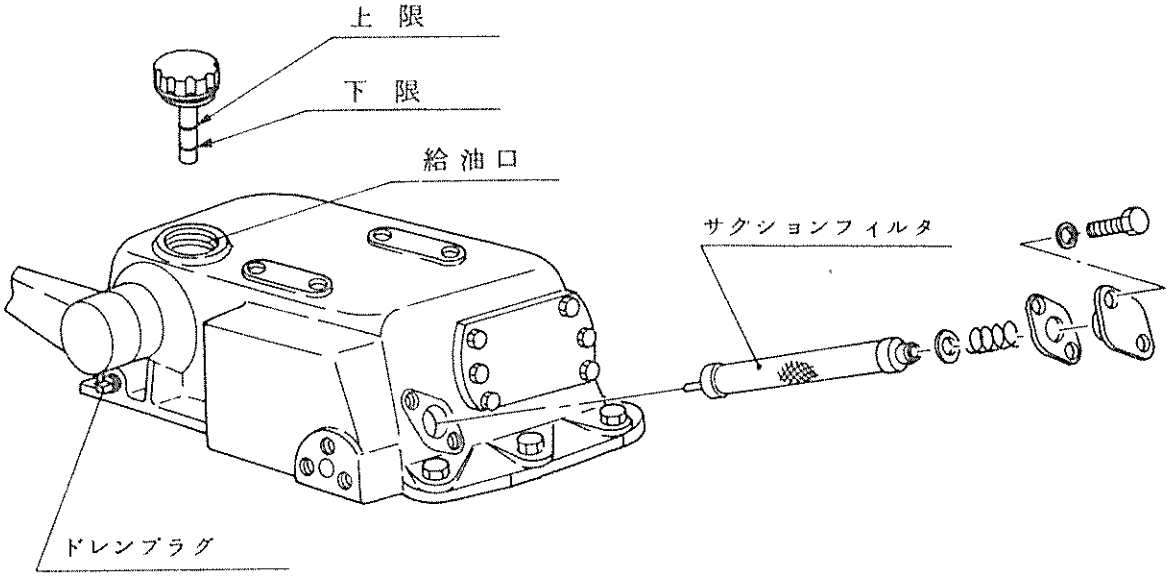
(3) 油圧オイル

ＴＳ２８１０型，ＴＳ２５１０型



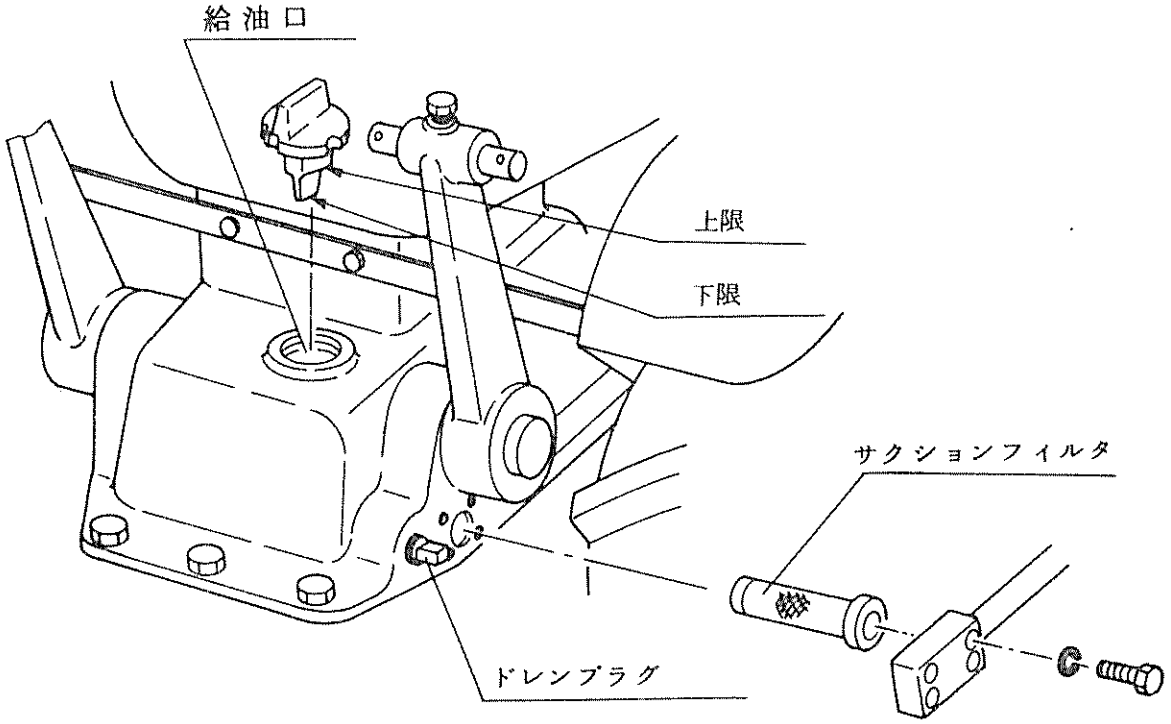
第２６図

ＴＳ２２１０型



第２７図

ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型



第２８図

注意

- 使用オイルは，キセキ推奨の油圧オイルをご使用ください。
- 補給は必ず同質のオイルを使用してください。
- 油圧部品は特に精密です。ごみなどが混入しないよう十分注意してください。

(4) 燃　　料

エンジン性能は燃料により大きく左右されます。使用燃料は良質のものをご使用ください。

使用燃料

ディーゼル軽油　　ＪＩＳ２号

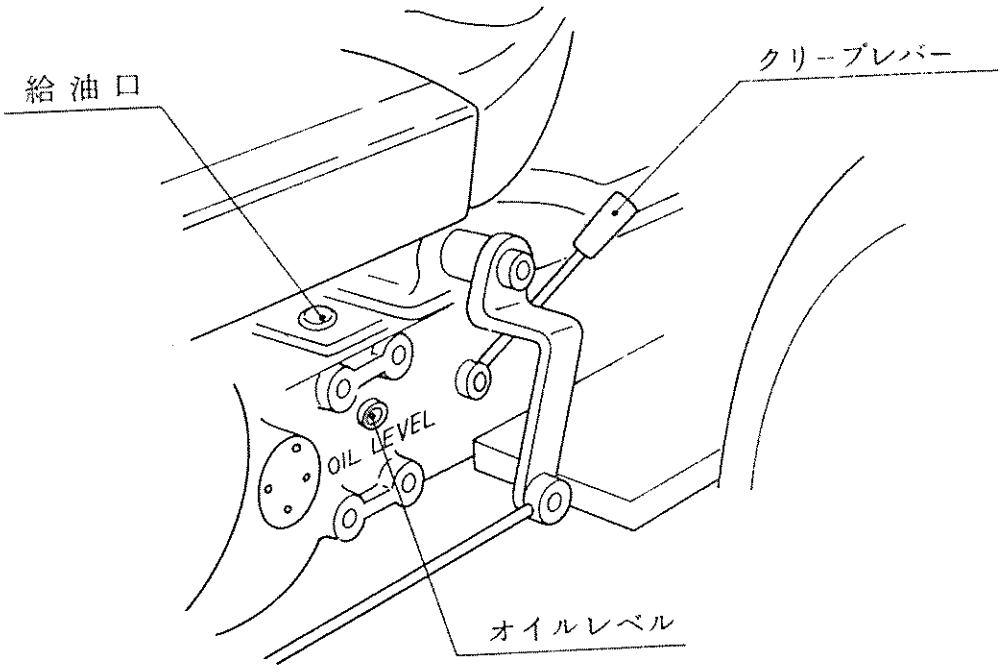
ＪＩＳ３号（厳寒時）

注意

- 燃料系統にエアーが入りますと，出力低下や始動不能になります。燃料切れになったときや，フィルタを掃除したときには，必ずエアー抜きをしてください。
エアー抜きの要領は（５０頁）を参照してください。

(5) クリープミッション

ＴＳ２８１０型，ＴＳ２５１０型（Ｌ型）



第 28 A図

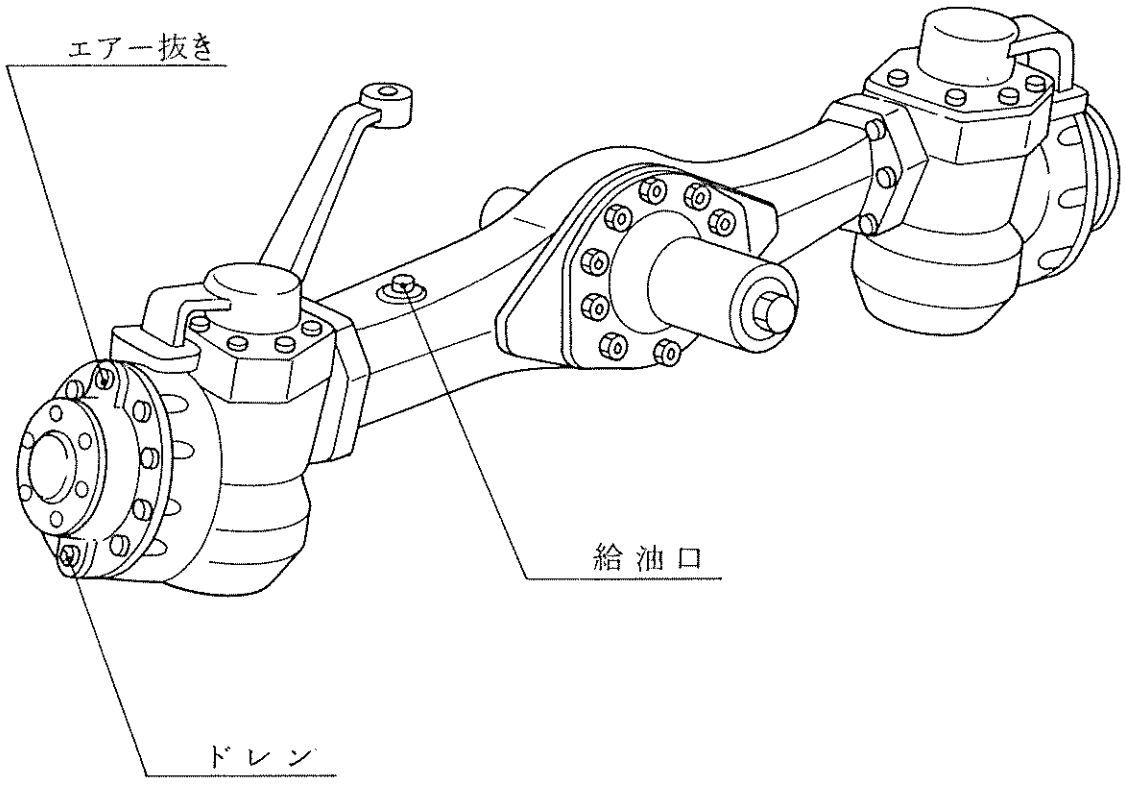
(6) 四駆ミッション（クラッチハウジング）（F型）

クラッチハウジングの右側のプラグを抜き，あふれるまでキセキギヤーオイル９０＃を入れてください。（0.8ℓ）

(7) 四駆フロントアクスル（F型）

給油口から，キセキギヤーオイル９０＃を入れてください。この時，両側のエアー抜き用プラグを外しておくと，スムーズに入ります。

（8ℓ）

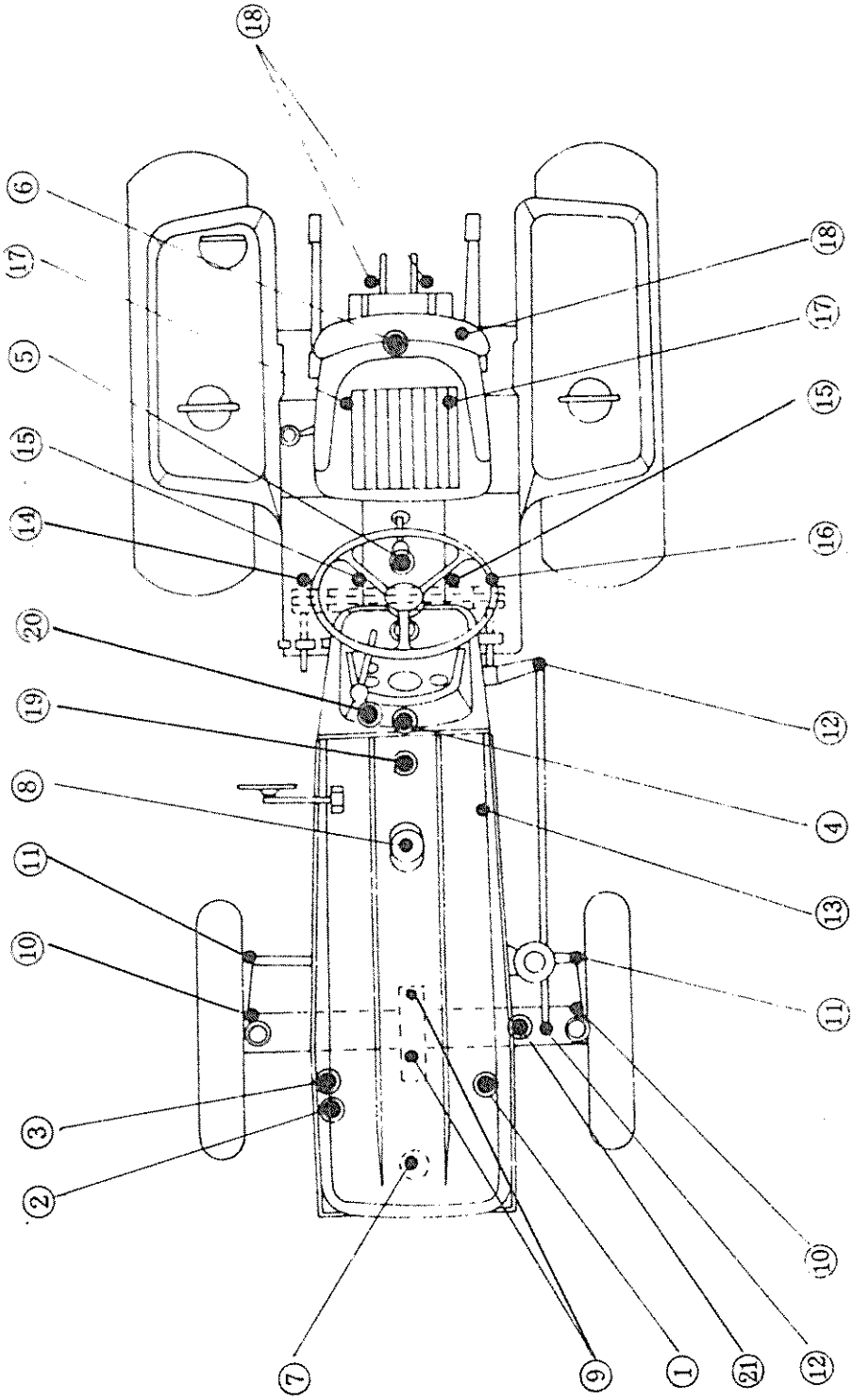


第２８Ｂ図

3　給油・給水箇所一覧表

注意

・各部のオイル交換は，運転後のオイルが暖かいうちにおこなうと，容易に抜くことができます。



番号	給油(水)箇所	潤滑油(水)の種類	油(水)量(ℓ)				
			TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
1	エンジン	キセキエンジンオイル	3.6	3.6	3.6	3.6	6.2
2	インジェクションポンプ(ポンプ室)	〃	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
3	〃 (ガバナ室)	〃	—	—	—	—	0.16
4	ステアリングボックス	キセキギヤーオイル90#	補充	補充	補充	補充	補充
5	トランスミッションケース	〃	9	9	13	16	16
6	シリンダケース	油圧オイル	5	5	9	8	8
7	ラジエータ	冷却水	6	6	6.1	6.9	7.9
8	燃料タンク	ディーゼル軽油(JIS2～3号)	16	16	20	30	30
9	センタピボット	グリース	適量	適量	適量	適量	適量
10	ナックルスピンドル	〃	〃	〃	〃	〃	〃
11	タイロッドエンド	〃	〃	〃	〃	〃	〃
12	ドラッグロッドエンド	〃	〃	〃	〃	〃	〃
13	クラッチシャフト	〃	〃	〃	〃	〃	〃
14	ブレーキペダル	〃	〃	〃	〃	〃	〃
15	ブレーキシャフト	〃	〃	〃	〃	〃	〃
16	クラッチペダル	〃	〃	〃	〃	〃	〃
17	ブレーキカムピンアーム	〃	〃	〃	〃	〃	〃
18	フロートリンク	〃	—	—	〃	〃	〃
19	クリープミッション(L型のみ)	キセキギヤーオイル90#	—	—	—	1.8	1.8
20	四駆ミッション(F型のみ)	〃	—	—	—	—	0.8
21	四駆フロントアクスル(F型のみ)	〃	—	—	—	—	8

4　定期点検・整備一覧表

○ 点検，補充，調整　　△ 清掃，洗浄

● 交　換　　☆ サービス工場に依頼

区分	項目	仕業点検	定期点検・整備時間（アワーメータ標示） 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	その後の点検	仕業点検判定基準
エンジン	エンジンオイル	○	●		●		●		●		●		●		100時間毎交換	レベルゲージ内にあること
	インジェクションポンプ（ポンプ室）		●		○		●		○		●		○		100時間毎点検 200時間毎交換	
	〃　（カバー室）		●		○		●		○		●		○		〃	
	エアクリーナ			△		△		△		△		△		△	100時間毎清掃	
	ラジエータ冷却水	○													1年に1回交換	口元まで入っていること
	ラジェータネット	○														ゴミつまりがないこと
	燃　料	○														満タンにする
	燃料フィルタ（A）		○	△	○	△	○	●	○	△	○	△	○	●	100時間毎洗浄 300時間毎エレメント交換	
	燃料フィルタ（B）			△		△		●		△		△		●	〃	
	燃料タンク内部洗浄														1年に1回洗浄	
	ファンベルト	○														指で押しタワミ5㎜
	バッテリ液面点検			○		○		○		○		○		○	100時間毎点検	
	オイルフィルタ							☆						☆	300時間毎交換	
	各部ボルト・ナットのゆるみ	○														ゆるみなきこと

※ 燃料フィルタ（A）（B）二連はTS2810型のみです。

区分	項目	仕業点検	定期点検・整備時間（アワー・メータ標示） 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	その後の点検	仕業点検判定基準
本体	ミッションオイル			○		○		○		○		○		○	100時間毎点検 900時間毎に交換	
	クラッチペダルの遊び	○														遊び 15~20㎜
	ブレーキペダルの遊び	○														〃
	ブレーキペダルの効き具合	○														ペダルをロックし左右同時に効く
	各レバー類の作動	○														確実に操作できるか
	油圧オイル			○		○		●		○		○		●	100時間毎点検 300時間毎交換	
	サクションフィルタ							△						△	300時間毎清掃	
	ステアリングホイルの遊び	○														ホイル外周で約30㎜
	タイヤ空気圧 TS2810	○														前 2.0 kg/cm² 1.2 kg/cm² (TS2810Fのみ) 後 1.2 kg/cm²
	TS2510	○														
	TS2210	○														前 2.0 kg/cm² 後 1.5 kg/cm²
	TS1910	○														前 2.0 kg/cm²
	TS1610	○														後 1.6 kg/cm²
	トーイン							○						○	300時間毎点検	2~4㎜
	フロントホイルハブグリース封入														★ 900時間毎実施	
	フロントホイルベアリング増締														★ 〃	
	かじ取り装置ボールジョイント増締						○							○	300時間毎調整	
	ホイル締付ボルト	○														ゆるみなきこと
	電装計器作動	○														点滅，作動確実か
	スロットル・アクセルペダル調整							○						○	300時間毎調整	
	各部のグリースアップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間毎補充 (代掻時は毎日)	
	各部ボルトナットのゆるみ	○														ゆるみなきこと
	クラッチ室・ブレーキ室油もれ点検														クラッチ室・ブレーキ室下部のプラグを抜き1年に1回点検	

5　各部の点検・調整要領

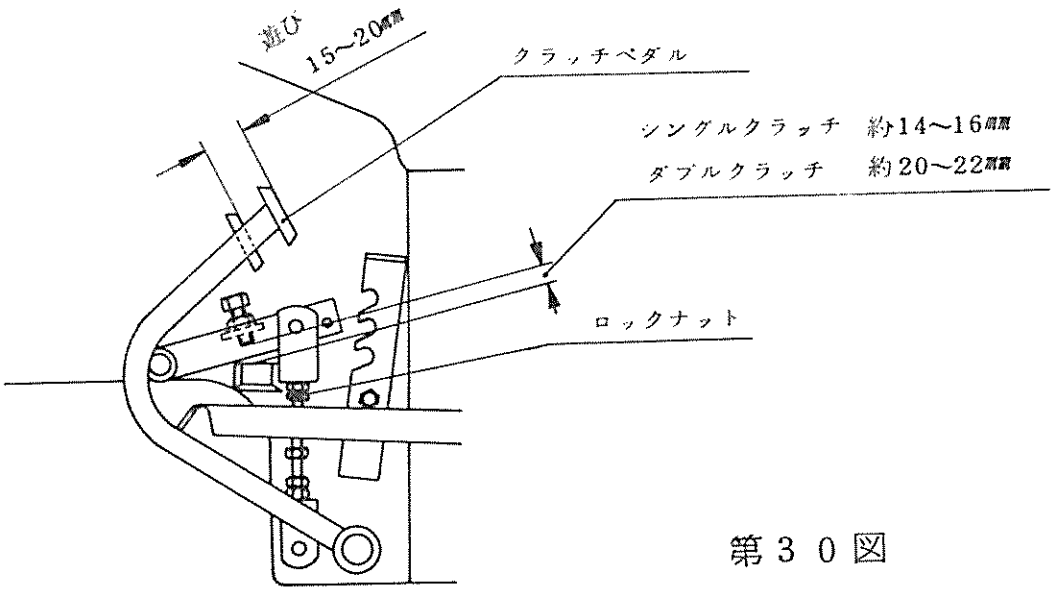
●　クラッチペダル

クラッチペダルは長時間使用すると，遊びがなくなります。

ペダルの遊びは各機種共に１５～２０㎜です。

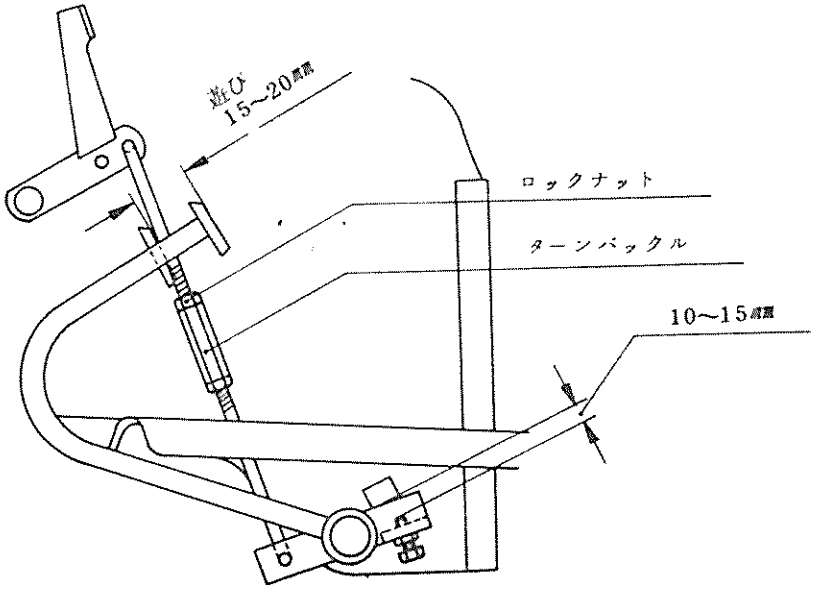
遊びが少なくなってきたら，ロッド又はターンバックルのロックナットをゆるめて調整してください。

ＴＳ２８１０型・ＴＳ２５１０型



第３０図

ＴＳ２２１０型・ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型



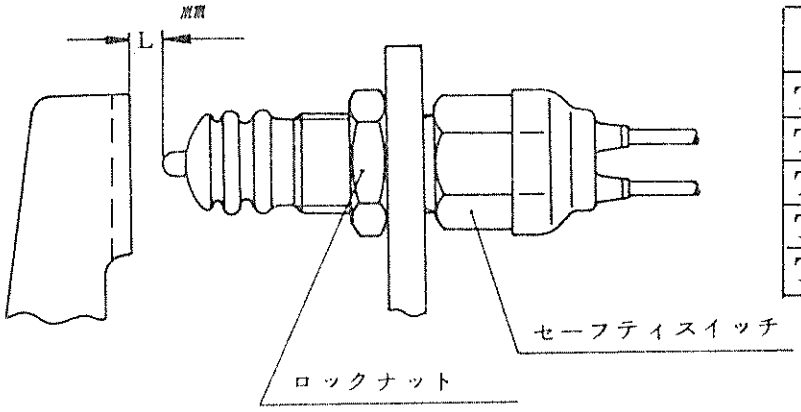
第３１図

● セーフティスイッチ

安全のためクラッチペダルを踏まなければエンジンが始動しないよう，セーフティスイッチを使用しています。

このスイッチは，ペダルを踏むとアームがスイッチの先端を押し，電気が流れるようになっています。

クラッチペダルの遊びを調整したときは，必ずセーフティスイッチの位置を調整してください。適正値は次の通りです。



機種	L	
	S型	D型
TS1610型	12	／
TS1910型	12	／
TS2210型	12	／
TS2510型	4	6
TS2810型	4	6

第３２図

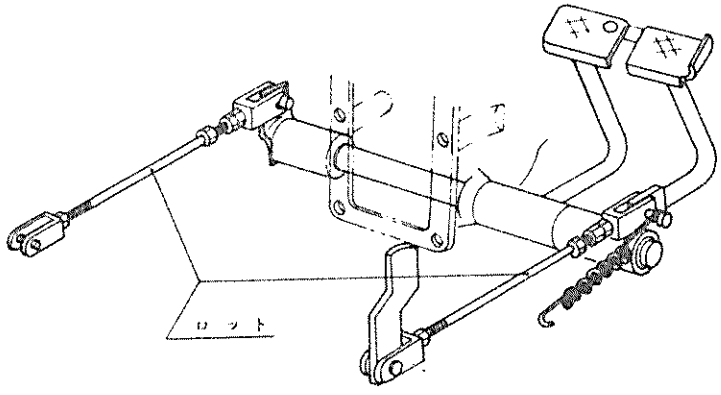
● ブレーキペダル

ブレーキペダルの遊びは１５～２０㎜が適正です。

遊びが多くならないうちに，早めにロッドで調整してください。

⚠ 注意

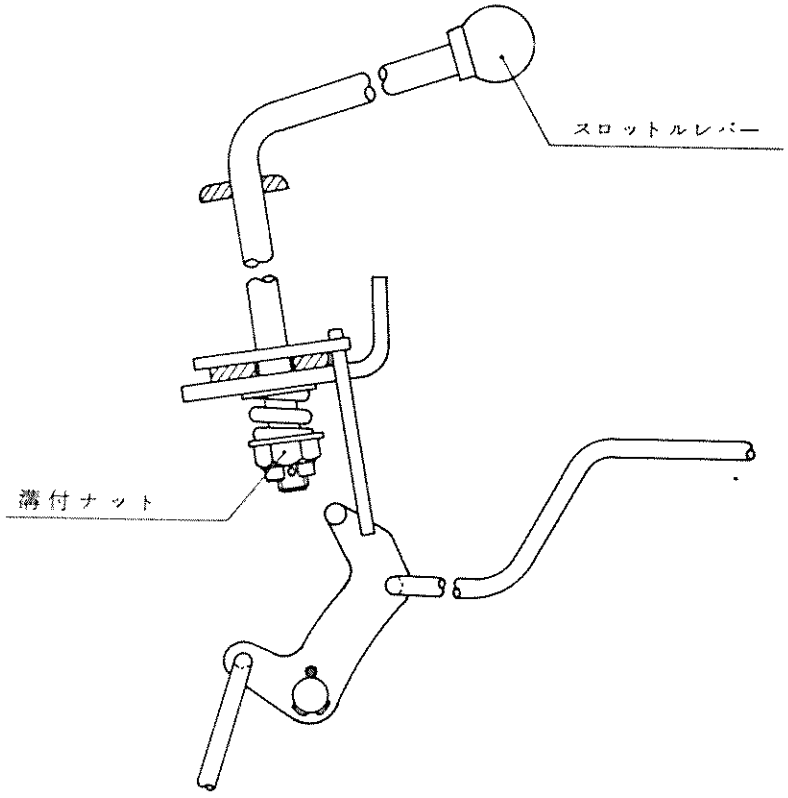
・ブレーキは左右同じように利かないと，連結して踏み込んだとき片利きになりますから，左右同時に利くように左右のロッドで調整してください。



第３３図

● スロットルレバー

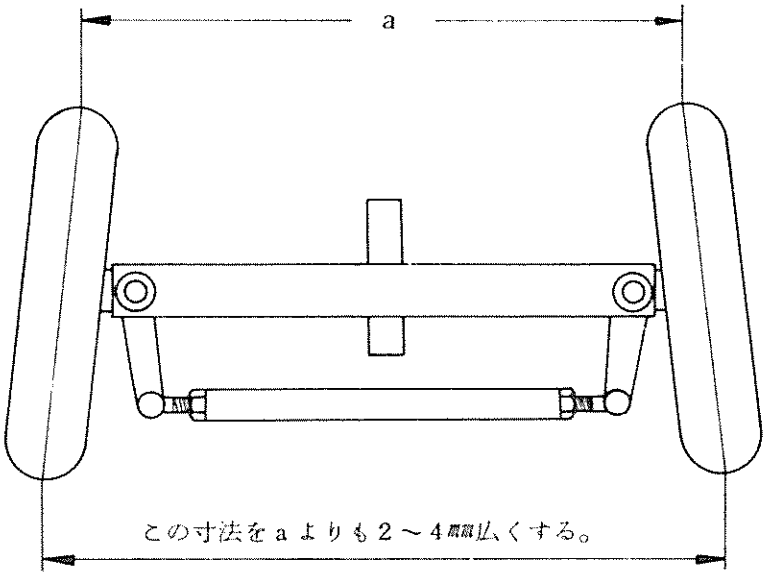
スロットルレバーの回動がゆるくなったときは，溝付ナットで調整してください。



第３４図

● トーイン調整

トーインの適正値は２～４㎜です。ロックナットをゆるめて調整してください。



第３５図

● ステアリング ホイルの遊び

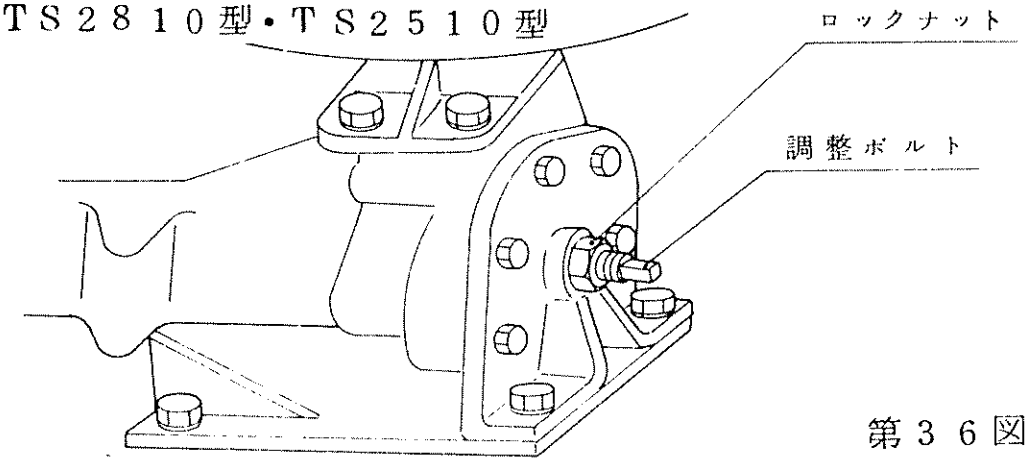
ステアリングホイルの遊びはホイル外周で約３０㎜程度です。

仕業点検で遊びが大きくなっていれば，適正値に調整してください。

遊びの原因は，ボールジョイント締付部のゆるみが多いので確実に締めてください。それでも遊びが多いときは下図の「調整ボルト」で調節してください。「調整ボルト」は，ネジ込むと遊びが少なくなります。

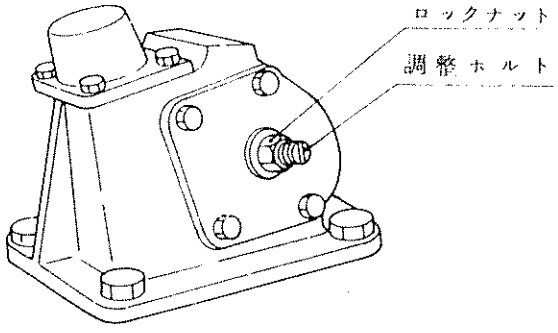
注）パワーステアリング仕様についてはハンドルの遊びは「調整ボルト」で調整してはいけません。もし遊びが大きい場合は、代理店と相談してください。

ＴＳ２８１０型・ＴＳ２５１０型



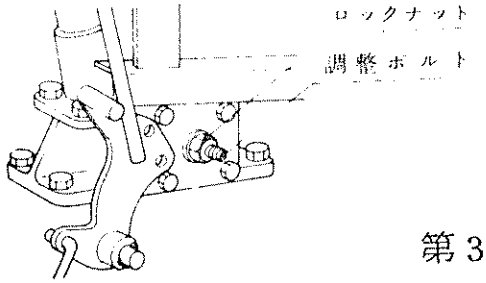
第３６図

ＴＳ２２１０型



第３７図

ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型



第３８図

● 燃料系統のエアー抜き

燃料系統のビス・ボルトがゆるんでいたり，燃料を使い切ってしまったときはエアー（空気）が混入します。燃料系統にエアーが混入すると，出力低下や，始動不能になりますから，必ずエアー抜きをしてください。

ＴＳ２８１０型

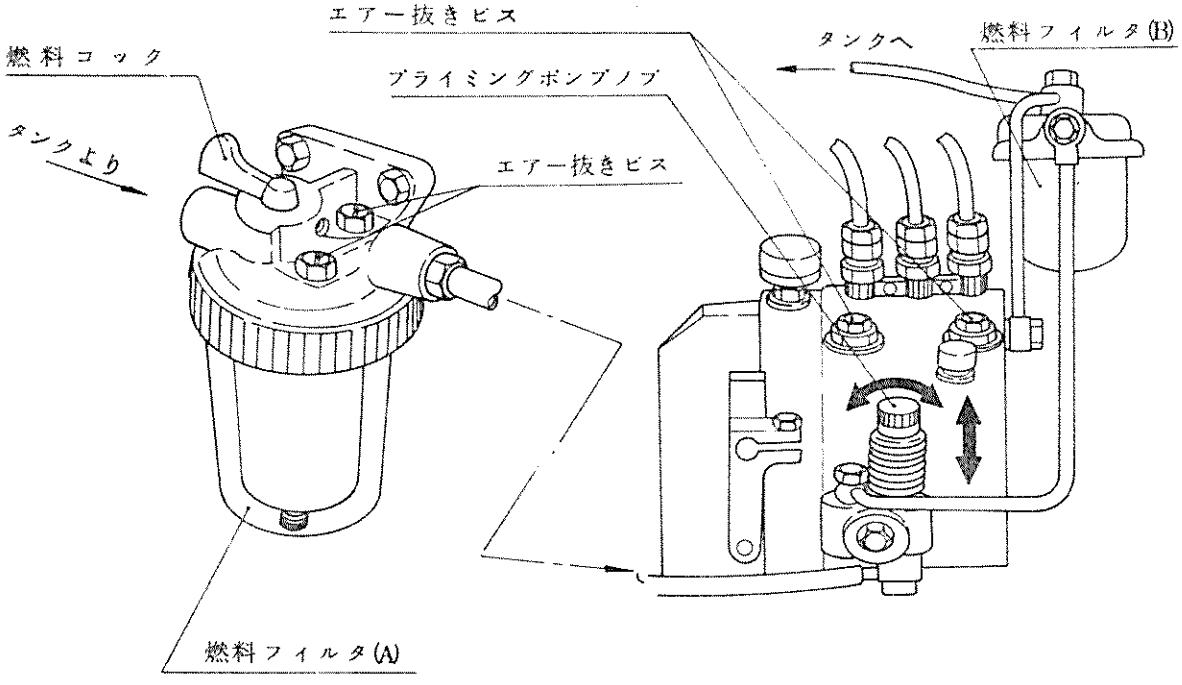
(1) 燃料コックが開いているか，確認します。

(2) 燃料フィルタ(A)のエアー抜きビス２本をゆるめ，フィルタ内のエアーを抜いて確実に締め込んでください。

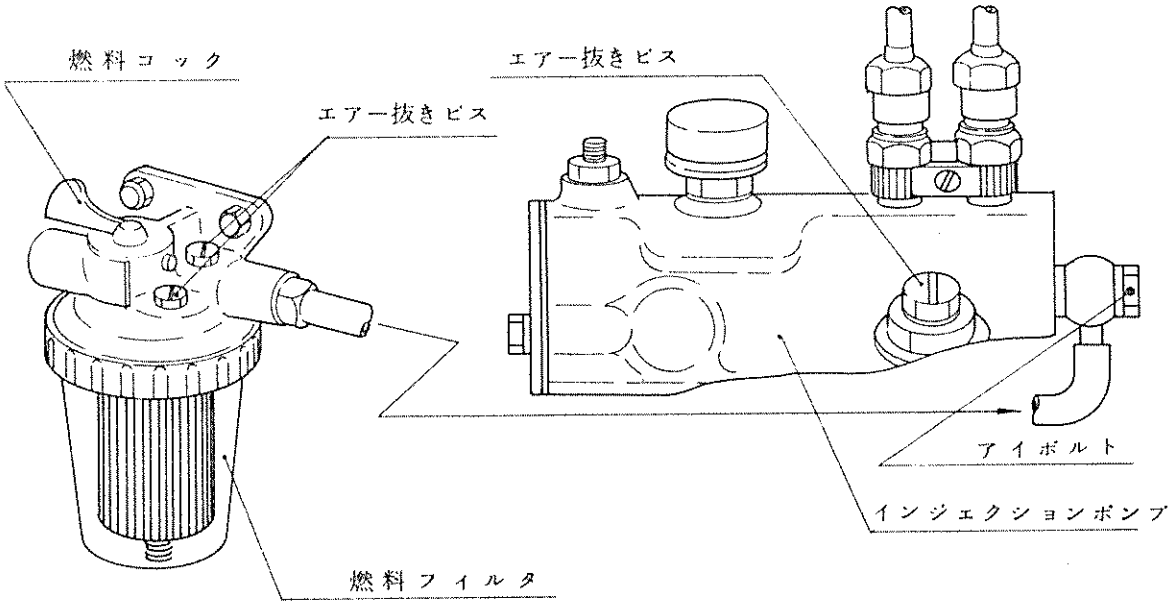
(3) インジェクションポンプのエアー抜きビス２本をゆるめます。

(4) フィードポンプのプライミングポンプノブを左に回わしてゆるめ，数回上下させてエアー抜きビスから完全に気泡を抜いてください。完全に抜けたら，ビスを締め込んでください。

(5) エアー抜きビスを締めたら，燃料リターンパイプから燃料がタンクに流れる迄プライミングポンプを押し，燃料が戻ることを確認しノブを押し込み右に回わして固定し，エアー抜きは完了です。



第３９図



第４０図

(1) 燃料コックが開いているか確認します。

(2) 燃料フィルタのエアー抜きビス２本をゆるめ，フィルタ内のエアーを抜き確実に締め込んでください。

(3) インジェクションポンプのアイボルトをゆるめ，燃料パイプ内のエアーを抜き確実に締め付けてください。

(4) インジェクションポンプのエアー抜きビスをゆるめ，エアーを抜き確実に締め付けてください。これでエアー抜きは完了です。

● 前，後輪調節

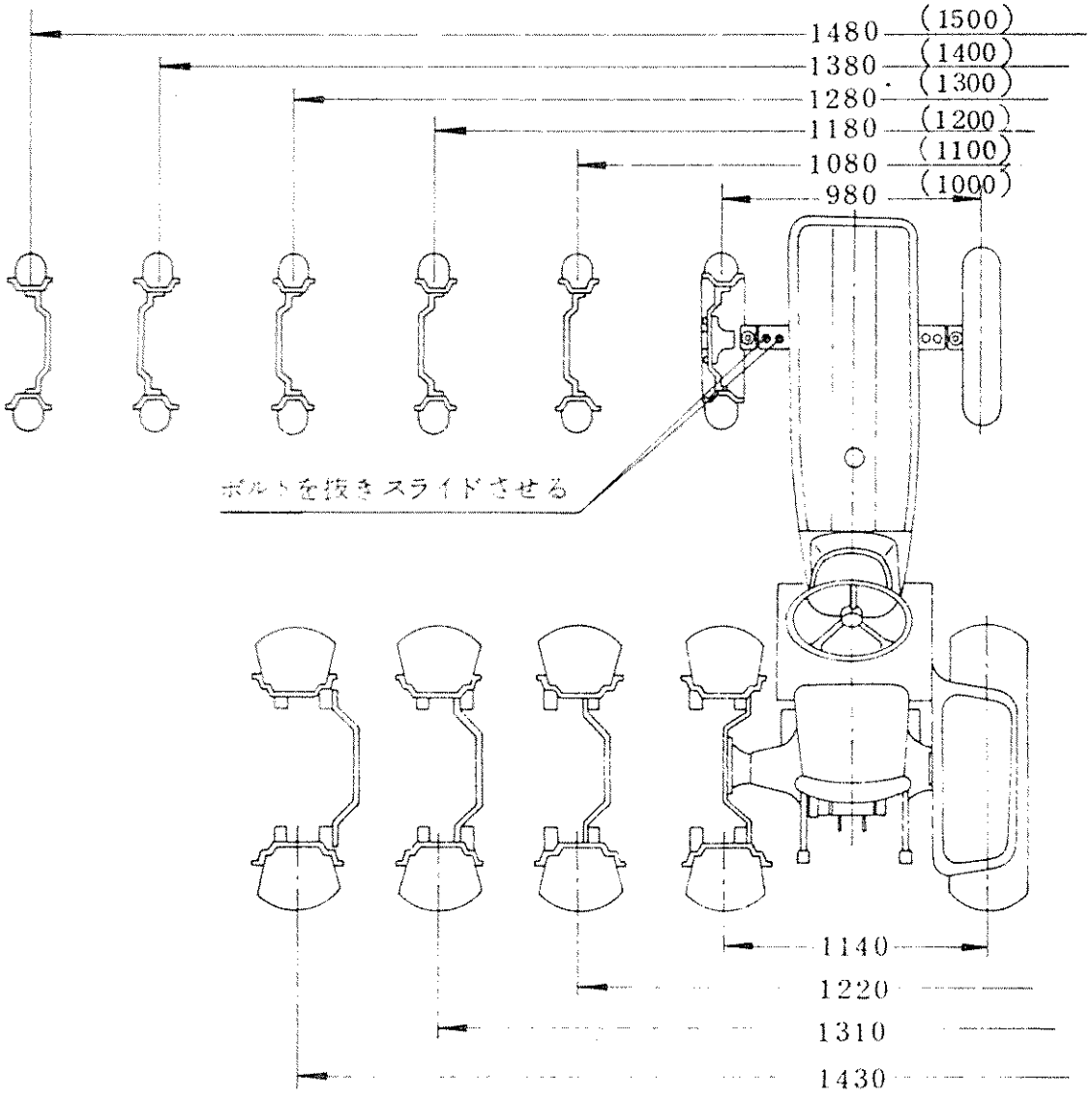
前，後輪のトレッド調節は，機種により異なりますが，詳細次の通りです。

⚠ 注意

- トレッド調節は，安全に十分注意しましょう。
- 各部のボルト・ナットは確実に締め付けてください。

(1) ＴＳ２８１０型・ＴＳ２５１０型

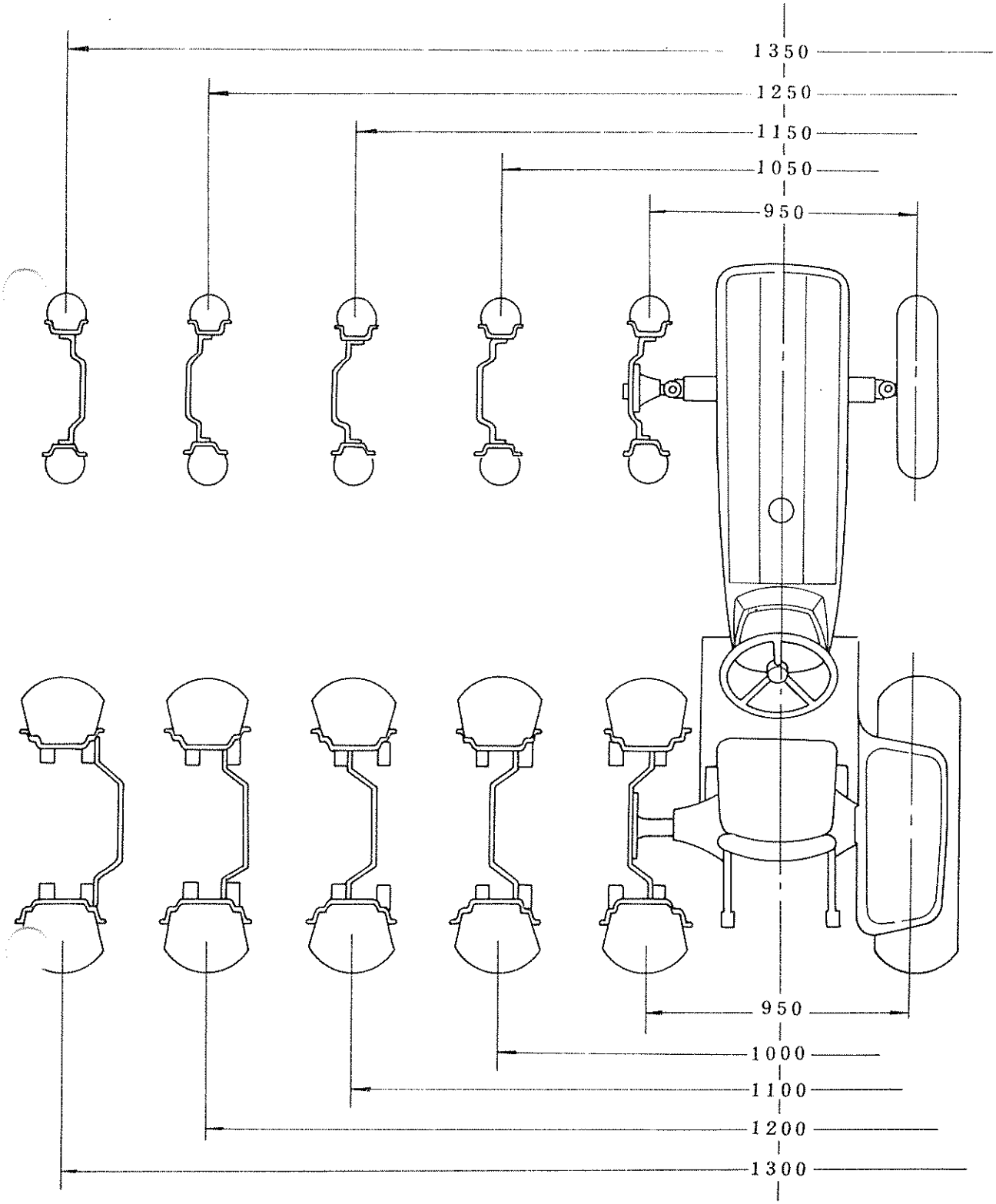
( )はパワーステアリング仕様のみ



第４１図

⊗ TS2810Fは，前輪トレッド１１２０のみです。

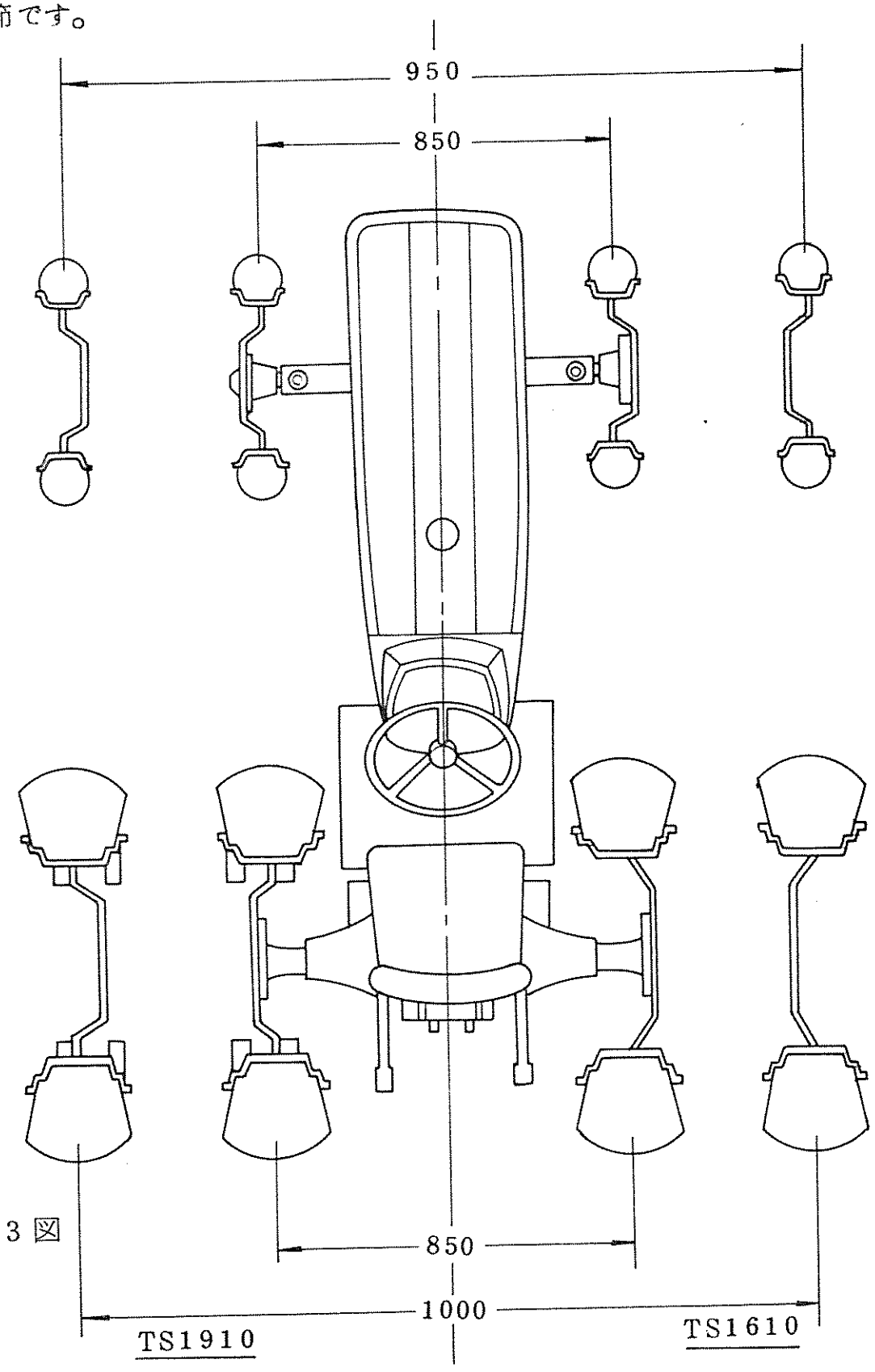
(2) ＴＳ２２１０型



第４２図

(3) ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型

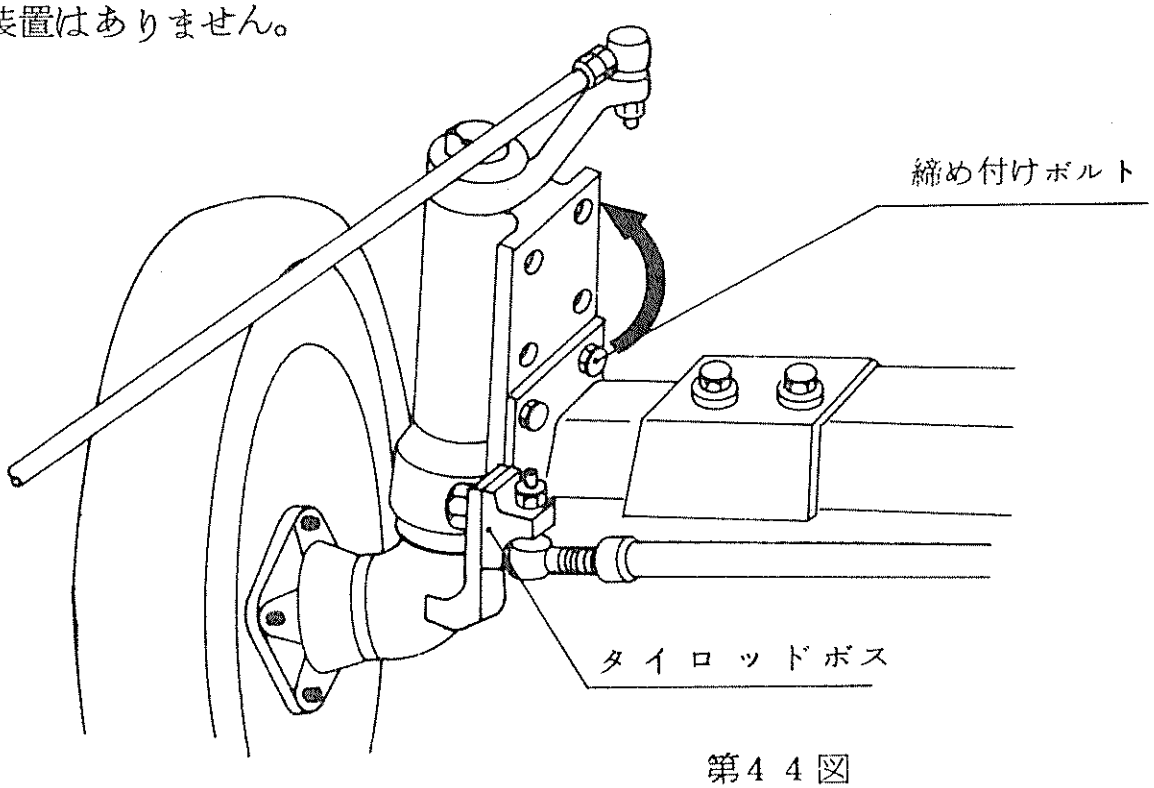
両機種共，前後輪トレッド調節は，タイヤの左右振り換えで２段階の調節です。



3 図

● 前輪軸上下調節

ＴＳ２８１０型・ＴＳ２５１０型には，前輪軸の上下調節装置があります。　ＴＳ2810Ｆ型およびパワーステアリング付には、上下調節装置はありません。

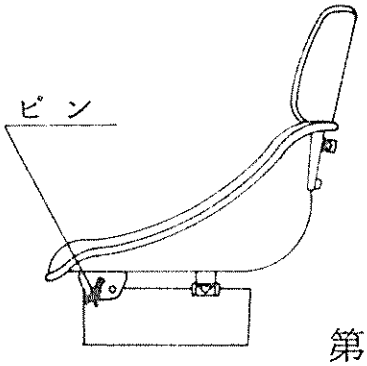


第４４図

前輪軸上下調節は〔第４４図〕の締め付けボルト４本を抜き，取付け穴位置を移動させることにより，ＴＳ２８１０型は６５㎜、ＴＳ２５１０型は３０㎜および９５㎜の２段階に調節することができます。タイロッドもタイロッドボス　を上下反転させて組むと，同時に高さを調節することができます。

● シート前後調節

ヘアーピンをはずしピンを抜くと，前後２段階の調節ができます。



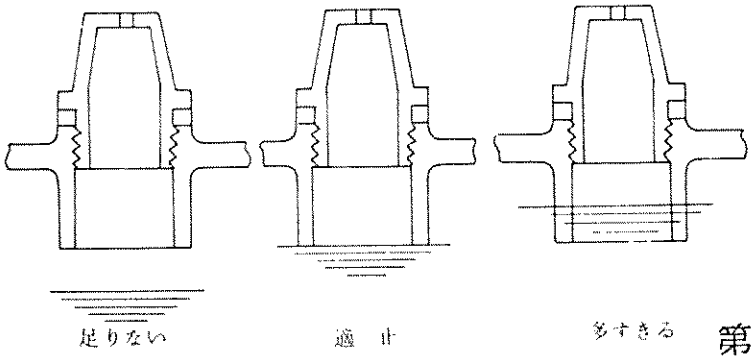
第４５図

● バッテリの点検

最近のバッテリは大変高性能になっていますが，その取扱いを誤ると寿命を短かくします。トラクタのバッテリは，エンジンの始動，燈火関係の大切な電源です。正しい取扱い方法で充分な機能を発揮させてください。

⚠ 注意

- バッテリに蓄えられた電気量が減ってくると，エンジンが始動できなくなったり，ランプが暗くなってきます。
  こんな状態になってからでは，手おくれの場合がありますから，できるだけ早めに充電してください。
- バッテリは，電解液中の水が蒸発したり，充電中には液量が減少します。液が不足するとバッテリを傷めますし，多いと液がこぼれて車体を傷めます。常に適正な液面を保つようにしましょう。
  ＴＳ２５１０型・ＴＳ２２１０型・ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型はアッパレベルとロアーレベルの間に液面を保ってください。
  ＴＳ2810型は下図を参照して下さい。



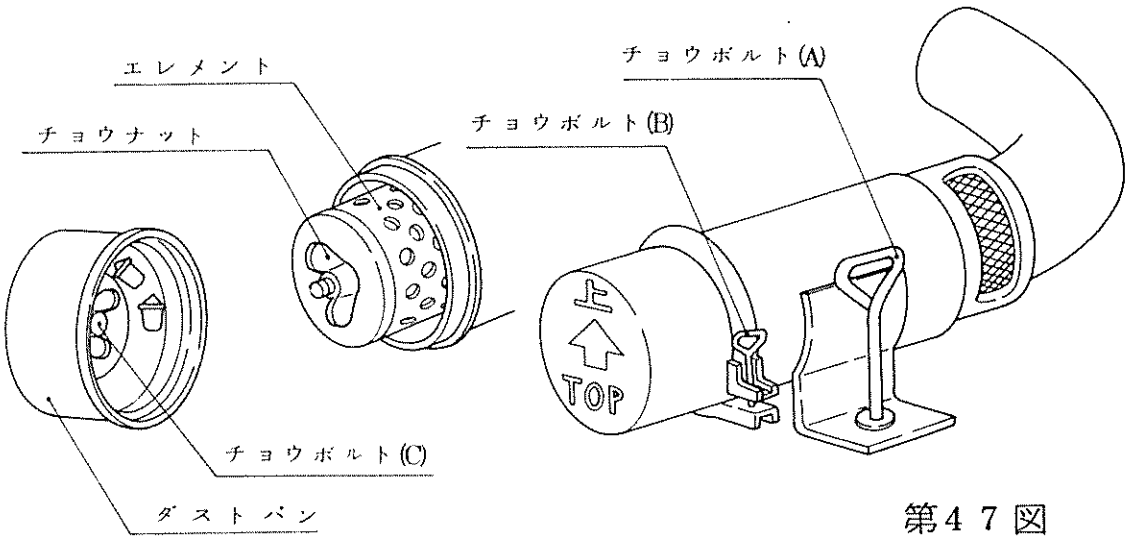
第４６図

- バッテリ液が少なくなったとき
  (1) 液が自然に減ったとき —— 蒸留水を補給します。
  (2) 液をこぼしたとき ———— 希硫酸を補給します。
  ガソリンスタンド又は専門店にご相談ください。
- バッテリ液の完全充電時の比重は，２０℃で約1.２６が適正値です。

● エアークリーナの点検・清掃

エアークリーナの点検・清掃は，次の要領で定期的におこなってください。

(1) ＴＳ２８１０型・ＴＳ２５１０型・ＴＳ２２１０型



第４７図

・ダストパンの点検・清掃

チョウボルト(A)を抜きエアークリーナ本体を持ち上げ，次にチョウボルト(B)をゆるめダストパンを取りはずします。さらにはずしたダストパンの内側にあるチョウボルト(C)を抜き，内部のほこりを点検し，ほこりがあれば排出してください。

・エレメントの清掃

ダスト・パンをはずしますと本体側にチョウナットが見えますから，これをゆるめて，エレメントを取り出し清掃してください。

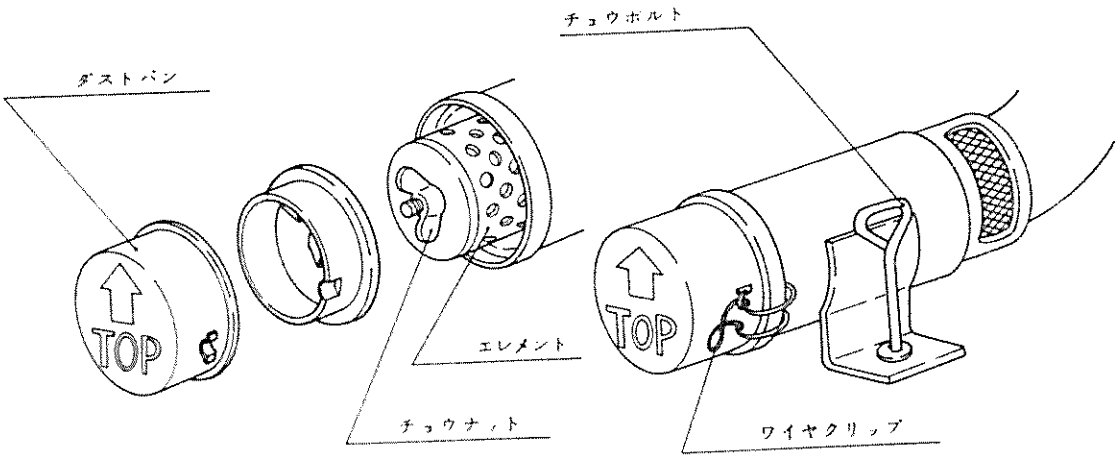
(イ) 乾いたほこりがついているとき

エレメントを手で持ち，軽るくたたいてほこりを落します。

(ロ) 湿ったほこり，油分などで汚れているとき

一流メーカの家庭用中性洗剤を水でうすめ，エレメントを約30分浸し，その後軽くすすぎ洗いをして自然乾燥させてください。

(2) ＴＳ１９１０型・ＴＳ１６１０型



第４８図

・ダストパンの点検・清掃

チョウボルトを抜きエアークリーナ本体を持ち上げて，ワイヤクリップをはずして，ダストパンをはずし，内部のゴミを排出してください。

・エレメントの清掃

前頁のエレメント清掃の項を参照してください。

注意

・ダストパンの取付けは，必ず矢印を上にして組付けてください。

● ラジエータ

冷却水は作業前にいっぱい入れておけば1日の作業量には充分です。
運転前には冷却水面の点検を習慣づけてください。

(1) 圧力キャップ

圧力キャップはバネの力によって完全に密閉するものです。
しめ方が不完全なとき，又は座面にすき間のある場合には冷却水が漏れて，早く減ります。

注意

- 高負荷運転中および停止直後に圧力キャップをあけますと，熱湯がふき出してやけどをしますから，圧力キャップをあけるのは停止後１０分間ほどたってからにしましょう。
- 冷却水を抜くときは，忘れずに圧力キャップをはずしましょう。

(2) ラジエータの清掃

トラクタを使用するとラジエータ前面のネットに草の実，わらくず，こん虫などが付着し，冷却効果が低下します。
作業中，ラジエータ水温が異状に上昇する原因になります。
金網をはずして，定期的に清掃してください。

(3) 不凍液

不凍液の取り扱い要領については（３１頁）を参照してください。

10　故障の診断と処置

	故障状況	原　　因	処　　置
エンジン関係	スタータスイッチを回しても，スタータが回らない	○クラッチペダルを踏み忘れていませんか	○ペダルを必ず踏み込む
		○バッテリの放電	○バッテリを充電
		○各部端子のゆるみ	○はずれ，ゆるみ，腐蝕を点検し清掃して確実に締め付け，グリスを塗布し防錆しておく
		○スイッチの故障	○サービス工場で修理又は交換
		○スタータの故障	○サービス工場で修理又は交換
	スタータは回るが，回転が上らない	○バッテリが弱い	○バッテリの充電
		○アース不良	○接続部を清掃しアースを確実に
		○エンジンオイルの粘度不適	○適正粘度のオイルに交換
	スタータは回るがエンジンがかからない	○燃料系統にエアー混入	○エアー抜きをおこなう
		○燃料フィルタのつまり	○フィルタの清掃又は交換
		○燃料が供給されない	○コックを開いて燃料を送る
		○エンジン本体の不具合	○サービス工場で修理する
	エンジン回転が不規則である	○燃料系統にエアー混入	○エアー抜きをおこなう
		○燃料フィルタのつまり	○フィルタの清掃又は交換
		○噴射ノズルのつまり	○清掃又は交換
		○パイプ系の燃料もれ	○クランプの締付，パイプの交換　銅ワッシャは表面を磨き締付
		○燃料噴射の不揃い	○サービス工場で修理

	故障状況	原　　因	処　　置
エンジン関係	エンジンを低速にすると停止する	○インジェクションポンプの不良	○サービス工場で修理
		○エンジンのバルブクリアランス不良	○サービス工場で修正
		○ノズル不良	○サービス工場で修理
	エンジンが過回転する	○ガバナにゴミ等がつまっている	○サービス工場で修理
		○オイル上り	○サービス工場で修理
	運転中にエンジンが突然停止した。	○燃料不足	○燃料補給とエアー抜きをおこなう
		○ノズル不良	○サービス工場に依頼し交換
		○オイル不足又は潤滑不良によるエンジン焼付	○サービス工場に依頼 ファンベルトを引張って動けば燃料不足か，ノズル不良の場合が多い
	エンジンが過熱する	○冷却水の不足	○冷却水を補給する
		○ファンベルトのゆるみ，破損	○ベルトの張り調節又は交換
		○ラジエータの目づまり	○ネットを清掃する
		○エンジンオイル不足	○点検・補充
	エンジンの排気色が白い	○エアークリーナがつまっている	○エレメントの清掃
		○エンジン・オイル量が多すぎる	○点検し適正量にする
		○燃料供給量の不足	○サービス工場で修理

	故障状況	原　　因	処　　置
エンジン関係	エンジンの排気色が黒すぎる	○燃料が良くない	○正規の燃料に入れかえる
		○燃料の供給過剰	○サービス工場で修正
		○ノズル圧力の不足	○サービス工場で修正
	エンジンの出力不足	○ノズルの焼付，つまりおよびカーボンがたまっている ○圧縮圧力の不足，バルブシート部よりガスもれ ○バルブクリアランス調整不良 ○噴射時期不良	サービス工場で修理
		○燃料不足	○燃料系統をチェックする
		○エアークリーナのつまり	○エレメントを清掃する
	運転中オイルランプが点灯する	○エンジンオイル量が少ない	○規定量まで補給
		○エンジンオイルの粘度が低い	○適正粘度のオイルに交換
		○プレッシャスイッチの故障	○スイッチを交換する
		○オイルポンプの故障	○サービス工場で修理
		○オイルフィルタエレメント目つまり	○エレメントを交換

	故障状況	原　　因	処　　置
エンジン関係	運転中にチャージランプが点灯する	○配線の故障	○端子のゆるみ汚損，ショート，アース不良を修理
		○ダイナモ不良	○サービス工場で修理
		○レギュレータ不良	○サービス工場で修理
		○バッテリの不良又は蒸留水不足	○バッテリの交換または蒸留水の補給
		○ファン・ベルトのゆるみ又は破損	○張り調節又はベルト交換
クラッチ関係	クラッチがすべる	○ペダルの調整不良	○ペダルの遊び，踏みしろの調整
		○クラッチライニングの磨耗・焼損	○サービス工場で修正又は交換
	クラッチが切れない	○クラッチライニングの錆付	○サービス工場で修理する
		○ペダルの調整不良	○ペダルの遊び，踏みしろ調整
ブレーキ関係	ブレーキのききが悪い。または片ききである	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる	○遊び量を調整する
		○ブレーキ室への油もれ	○サービス工場で修理
		○ライニング磨耗・焼付	○サービス工場でライニング交換
		○左右の踏み込み量が異なる	○踏み込み量を左右同じにする
	ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷	○スプリング交換
		○各摺動部のグリース切れ	○錆びを落としグリース アップ

	故障状況	原　　因	処　　置
油圧関係	油圧が上らない	○油圧オイル不足	○規定量迄補給する
		○吸入パイプ系統からエアーを吸い込む	○取付部を増し締めし，パイプに亀裂が発生していたり，Oリングが破損していれば交換
		○サクションフィルタのつまり	○清掃する
		○油圧ポンプの故障	○サービス工場で修理
		○コントロールバルブの故障	○サービス工場で修理
		○シリンダの破損	○サービス工場で交換
	配管に油もれがある	○各部ジョイントのゆるみ	○増し締めをおこなう
		○パイプの亀裂	○サービス工場で交換する
	油圧レバーを上げにするとビーというリリーフバルブの音がする	○ストッパのずれ	○位置を修正する
		○オートリターン装置がきかない	○正規の位置に調整する
	油圧が下らない	○降り速度調節レバーがロック位置になっている	○下げの位置にする
		○コントロールバルブの故障	○サービス工場で修理
		○シリンダの破損	○サービス工場で交換
		○リフトシャフト回動部の焼付き	○サービス工場で修理

	故障状況	原　　因	処　　置
操向関係	パワーステアリング仕様ではハンドルのガタやその他の調整はサービス工場で行ってください。		
	ハンドルが重い ハンドルがとられる	○トーインが正しくない ○タイヤ空気圧の不揃い ○各エンドにガタがある	○修正する ○左右共に規定空気圧にする ○増し締めまたは部品交換
	ハンドルの遊びが多い	○ハンドルシャフトの磨耗	○調整ボルトによる修正
		○メタル類の摩耗	○サービス工場で修正
		○各エンドにガタがある	○増し締め
電装関係	バッテリが充電しない	○配線の故障	○端子のゆるみ汚損，ショート，アース不良を修理
		○ダイナモ不良	○サービス工場で修理
		○レギュレータ不良	○サービス工場で修理又は交換
		○ファンベルトのゆるみ又は破損	○張り調節又はベルト交換
		○バッテリの機能不良	○端子のゆるみ，腐蝕，電解液の不足などを修正する
	ライトが暗い	○バッテリ容量不足	○充電する
		○結線，接触不良	○アースおよびターミナルの点検清掃および増し締め
	ライトが点灯しない	○電球の断線	○電球交換
		○ヒューズの断線	○配線をチェックしヒューズを交換する
		○接触不良	○アースおよびターミナルの点検清掃

	故障状況	原　　因	処　　置
電装関係	ホーンが鳴らない	o ホーン・ボタンの故障 o 配線不良 o ホーンの損傷	o 交換する o 修理する o 修理又は交換する
	ウインカが点滅しない	o 電球切れ o フラッシャ ユニットの故障 o 接触不良	o 電球を交換する o 交換 o アースおよびターミナルの点検清掃

11　農作業を安全におこなうために

農林省より，安全に農作業に従事できるように，農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。

本〃しおり〃は，トラクター（乗用型・歩行型）を使用される方のために特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜萃しております。トラクター(乗用型・歩行型）の取扱説明書の内容と併せて熟読の上，事故のない楽しい農作業のためお役立て下さい。

1　トラクターを使用する人の条件

(1) 農用トラクターを使用する作業（以下「トラクター作業」という。）に従事する者は，運転する機械の操作に十分熟練した者であること。また，運転者は，必要な運転免許証をもっている者であること。

(2) 次に該当する者は，トラクター作業に従事しないこと。

ア　精神病者

イ　酒気をおびた者

ウ　過労，病気，薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者

エ　妊娠中の者

オ　１３才未満の者

(3) トラクター作業に従事する者は，とくに健康に留意し，適当な休養をとること。

(4) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては，適正な服装および保護具を用い危険のないよう作業に従事すること。

ア　頭の傷害防止の措置

機械からの墜落および落下物の恐れの大きい場合，交通頻繁な道路

での運行の場合等では，頭部保護のために適正な保護具を用いること。

交通頻繁な道路を運行する場合および乗用型トラクターによる作業に従事する場合には，ヘルメットを着用すること。

イ　巻込まれによる傷害防止の措置

原動機もしくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には，衣服の一部，頭髪，手ふき等が巻き込まれないように適正な帽子および作業衣等を使用すること。

ウ　足の傷害およびスリップ防止の措置

機械作業において，作業機等の落下，土礫の飛散，踏付，踏抜きおよびスリップ等の恐れのある場合は，これらの事故を防止するために適正なはきものを用いること。

エ　粉塵および有害ガスに対する措置

多量の粉塵および有害ガスが発生する作業にあっては，粉塵および有害ガスによる危険防止のための適正な保護具を使用すること。

オ　農薬に対する措置

防除作業においては，呼吸器，目，皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む。）を使用すること。

カ　はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音の伴う作業にあっては，耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

キ　保護具の取扱い

安全保護具を，常に正常な機能を有するように点検し，正しく使用すること。

2　保守管理

(1)　トラクターの運転者は，使用の前後に日常の点検整備を行なうほか，定期に点検整備を行ない，つねに，トラクター・作業機およびトレー

ラを安全な状態に保つこと。

(2) トラクターの運転者は，トラクターおよび作業機の操縦装置，防護装置等危険防止のために必要な装置を，常に点検整備し，正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

(3) トラクターおよび作業機の点検整備および修理は交通の危険がなく平坦である等安全な場所でかつ安全な方法で確実に行なうこと。また，屋内でエンジンを運転して点検整備を行なう場合は，換気を適正に行なうこと。

(4) トラクターの点検調整は，必ず原動機を止め，駐車ブレーキをかけ，車止めをかう等安全な状態で行なうこと。また，油圧装置で重い機械が持ち上げられている下で作業しなければならないときは，ロック装置のあるものについては必ずそれを使用し，かつ，ささえ棒をかう等急激な落下を防止する措置を講じて行なうこと。

(5) 作業機を上げた位置で点検調整等を行なう場合には，ロック装置のあるものについては，必ずこれを使用し，かつ，ロック装置の有無にかかわらず作業について落下防止の措置を講じること。

(6) 原動機を停止して点検整備中，不注意により原動機が始動しないような措置を講ずること。

(7) トラクター，トレーラ等を持ち上げ，その下で修理，車輪幅の調整，車輪の交換等を行なう場合は，地面についている車輪には，車止めをかけること。持ち上げるときのささえは，十分な強度と安全性を有することを確認すること。ジャッキを使用する場合は，ジャッキを車輪またはギヤボックス等安全な箇所にかけ，ジャッキの下は平にして，たおれたり，はずれたりしないようにすること。

(8) トラクターおよび作業機にとりつけられている防護装置等を，トラクターおよび作業機の点検整備または修理等で取りはずす場合は，その部分の作動が停止していることを確認したのち取りはずすこと。また，取りはずした防護装置は，必ず復元すること。

(9) エンジンが動いているときまたは過熱しているときに，燃料の補給をしないこと。

また，燃料の補給時または燃料庫付近では，火を使わず，また喫煙しないこと。夜間に給油を行なう場合は，裸火等を照明に用いないようとくに注意すること。

(10) ラジエータへの給水のために過熱したラジエータのキャップをはずすときは，蒸気または熱湯が噴出するおそれがあるので十分注意すること。また，過熱したラジエータに急に冷たい水を入れると，ラジエータが破裂する恐れがあるので注意すること。

(11) バッテリの点検はエンジンの始動前に行なうこと。また，バッテリには，火気を近づけないこと。とくにバッテリの栓をあけるときは，電解液にふれないように注意すること。

(12) 点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用すること。なお，トラクターには，点検調整に必要な工具類を常備しておくこと。

3 火災防止と危険物の安全管理

(1) 火災防止

ア 作業中可燃物を原動機，火炉等に近づけないこと。

イ 作業中火災の起らないように原動機，火炉等を安全に取り扱うこと。

(2) 危険物の安全管理

ア 危険と思われる機械は，作業終了後，おおいをする等安全を確保するための措置を講ずること。

イ 引火または爆発のおそれのある燃料等は，作業終了後必ず所定の格納庫に入れるか，危険のない場所におき，火気厳禁の標示をすること。

ウ 可燃性物質は，作業後火気のない安全な場所に移すこと。

4 作業機の着脱および調整

(1) 作業機の着脱は，平坦な場所等の安全な場所で，かつ，安全な方法で

確実に行なうこと。とくに夜間の作業機の着脱は，安全で適切な照明を用いる等安全に留意して行なうこと。

(2) 乗用型トラクターを移動して作業機を装着する場合には，トラクターと作業機の間に人が入らないように注意すること。トラクターと作業機の連結に際しては，いつでも逃げられる安全な態勢で操作し，このときトラクターは必ずブレーキで止めておくこと。

(3) 作業機の装着が終わったときは，確実に装着されているかピンに抜止ピンがしてあるかどうか確認すること。

(4) ユニバーサルジョイントは，作業中できるだけ真直ぐになるようにトラクターに装着すること。

(5) 重い作業機を連結または装着した場合には，トラクターにバランスウエイトをつけて，バランスの良い状態を保つこと。歩行型トラクターを常時後退耕うん作業に使用する場合にあっては，とくにバランスの良い状態を保つこと。

(6) 運転者が運転位置をはなれて，作業機を調整する場合は，トラクターの駐車ブレーキをかけ，また，エンジンを停止し，かつ，駆動軸への動力の伝動が断たれていることを確認したうえで行なうこと。

(7) 作業機の下へもぐったり，足を踏み込んだりしないこと。

(8) ロータリ耕作業機のカバーは，土礫が飛散しないように調節すること。

5 トラクターを定置作業に使用した時の注意事項

(1) 原動機から作業機への動力伝導は，安全かつ確実な方法によること。人が連結部に接触する恐れがある場合は，そのベルトに接触しないように配慮すること。またベルトの継ぎ目には，突起した金具を使用しないこと。

ベルトの掛けはずしは原則として原動機を停止して行なうこと。

(2) 機械の据付けに際しては，確実に固定するとともに作業のために必要な通路および作業場を適切に確保すること。

(3) 室内作業の場合は，適切な換気および採光の措置を講ずること。内燃機関を動力源とする作業または有害ガスを発生する作業を室内等で行なう場合には，とくに換気を適正にすること。

6 乗車等の禁止

(1) トラクターに他人を同乗させないこと。また，作業機に人を乗せないこと。ただし人が座るための座席か，立って乗るためのプラットホームがある場合は，これらの座席またはプラットホームの乗車定員の範囲内の人員については，この限りではない。

(2) 道路走行の場合は，作業機に人を乗せないこと。また，歩行型トラクター用のトレーラには，運転者以外は乗車させないこと。

(3) 運転者は，トラクターの座席以外の場所に立ったり座ったりして運転しないこと。

(4) 非常の場合を除いて，運行または作業中のトラクターおよび作業機に飛び乗りまたは飛び降りをしないこと。

7 運転操作

(1) １６才未満の者は，乗用型トラクターの運転をしないこと。ただし熟練した大人の監視の下に訓練のために運転する場合は，この限りではない。

(2) 機械作業中は，作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(3) 補助作業者および他人に危害を及ぼさないように機械を正しく運転すること。とくに土礫をはね飛ばす恐れのあるロータリ耕うん作業の場合は，子供等が近寄らないように注意すること。

(4) 始動および発進にあたっては，次の事項を守ること。

ア エンジンを始動するときは，変速位置を必ず中立にし，ＰＴＯ軸への動力の伝導も断っておくこと。

イ 格納庫内で，エンジンを始動するときは，換気がよいことを確認し

てから始動すること。

ウ　始動ハンドルで始動させる場合は，手がすべらないようハンドルをしっかりと握って逆回転しないように注意して回すこと。

エ　発進に際しては，変速位置と周囲の安全を確認するとともに，作業機やトレーラに注意し，人と機械の安全を確認したのち発進すること。

オ　歩行型トラクターの発進時には，ハンドルが重くなったり，はね上ったりするので注意すること。とくに，後退発進時には速度に注意し，ロータリ部がある場合には，ロータリが停止していることを確かめ，手元だけでなく足元にも十分注意すること。作業上の必要により後退耕うんを行なう場合は，転倒等の危険のないよう背後の障害物に注意すること。

(5)　作業または運行にあたっては，次の事項を守ること。

ア　運転者は乗用型トラクターの運行中には，運転席に着座して行なう以外の状態でトラクターを操作しないこと。また，運行中非常の場合を除き，運転席をはなれないこと。休けい等でトラクターを離れる場合は，安定した場所におき，作業機をおろしエンジンを止め，かつ駐車ブレーキをかけておくこと。やむをえず傾斜地にトラクターをおく場合は，必ず車止めをしておくこと。

イ　必要以上の高速運転，急発進，急加速，急制動および急施回は，厳につつしむこと。

ウ　トラクターの運行中は，ハンドルを正しく，しっかりにぎって操作し，わき見運転，いねむり運転をしないこと。

エ　高速走行をしている場合は，急ブレーキをかけることをなるべく避け，とくに施回時の急ブレーキは，危険であるので厳重にさけること。

オ　トラクター本体に荷台がある場合を除き，小さな荷物といえどもトラクター本体の上に積まないこと。

カ　動力伝導装置，回転部等の危険な部分には，接触しないよう注意すること。

キ　乗用型トラクターの旋回の際に，作業機に人が接触しないように周囲にとくに注意すること。

ク　歩行型トラクターの旋回の際に，運転者は，トラクターの重心位置の移動に注意するとともに，ロータリ，犁等の作業機に接触しないように注意すること。

ケ　夜間作業においては，とくに安全に留意し，適正で安全な照明を行なうこと。

コ　刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行なう場合は，傷害防止のためにとくに注意すること。

(6)　道路走行にあたっては，(5)に掲げた事項のほか，次の事項を守ること。

ア　関係法規を守り，安全に運転すること。

イ　他の自動車の運行の妨げとならないように留意すること。

ウ　刃物または鋭利な突起物を有する作業機は，取りはずすこと。やむを得ず装着したまま走行するときは，おおいをつけること。

エ　おおとつのはげしい道路，曲折のはげしい道路等においては，高速で運転しないこと。

オ　左右の車輪を別々に制動するブレーキがある場合は，左右のブレーキペダルを一体にした状態で走行すること。

カ　トラクターより幅の広い作業機を装着して走行する場合は，作業機の左右に見やすい所に赤い標識（夜間は赤燈）および低速であることを明示するマーク等をつけて他の自動車の注意をうながすとともに，運転者は幅が広いことおよび左右に揺動することに留意して運転すること。また，折りたたみ可能な作業機は必ず折りたたむこと。

キ　見通しの悪い交叉点または踏切り等を通過することが多い場合は，トラクターに側写鏡を装備する等車体を突き出さずに左右の安全を確認できるような措置を講ずること。

(7) 作業または運行条件の悪い場合には，(5)および(6)で掲げた事項のほか，次の事項を守ること。

ア　土地条件，気象条件等がトラクター作業に対して良くない場合には，実施の判断作業方法および装備の選択等に注意して行なうこと。

イ　おうとつの道，坂道，溝や川のそばの道および不整地ではスピードを落とし，また，施回する際には特別の注意を払うこと。

ウ　坂道を登るときまたは溝から出るときは，途中で馬力不足のため変速操作することのないようあらかじめ適当な変速位置にし，静かに発進すること。

エ　坂道の途中で変速操作を行なわないこと。

オ　坂道を下るときは，登るときの速度またはそれ以下の速度で走行すること。またクラッチを切ったり変速位置を中立にしたりして，ブレーキだけで速度を制御しようとしないでエンジンブレーキを利用して運転すること。

カ　降坂時は，必ずエンジンブレーキを用いること。また，操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では，前輪の浮上りに注意すること。

キ　水田への出入，洗車のため川などへの出入等の場合は，できる限りわたり坂等を使用し，転覆，転落等が起らないよう細心の注意を払うこと。

ク　急傾斜地を登り降りするときは，作業機をできるだけ低くして重心位置を下げること。また，とくに穴や溝に落ち込まないように注意するとともに，危険な施回は絶対に行なわないこと。

ケ　そばに溝のある道路，または道の片側もしくは両側が傾斜しているところを走行するときには，路肩の軟弱さおよびトラクターの横すべりに注意すること。とくに溝の満水時には注意すること。

コ　溝または畦畔を横断するときおよび軟弱地を通過するときは，スリップ及転倒を防ぐために速度を落す等とくに注意すること。

サ　溝または軟弱地に落ち込んでスリップしたときは，状況をよく判断して無理な脱出を試みないこと。とくに作業機を取りはずしたり，バランスウエイトをはずしたりしないこと。やむを得ずこれらをはずして自力で脱出を試みる場合は，とくに転倒のおそれが大きいので細心の注意を払うこと。

シ　重い荷物のけん引や抜根をするときは，けん引索を緊張させるまで徐々に前進し一担停止してから静かにけん引すること。また，乗用型トラクターでは，けん引索とトラクターとの連結点を後車軸中心線より低い位置にすること。

ス　トラックまたはトレーラへのトラクターの積み降しをするときは，転倒および落下を防ぐために，わたし板の固定角度，強度，すべり止めおよびトラクターの前後のバランス，速度にとくに注意すること。

8　駐車および格納

(1)　駐車するときは，機体を安定した場所におき，作業機を下し，始動キーを抜き，かつブレーキをかける等完全な停止状態を保つようにすること。

(2)　作業終了後は，必ず次の作業のための機械の点検整備を行ない，火気を使用する作業にあたっては火気の点検を十分に行なうこと。

(3)　トラクター等を格納するときは，完全な停止状態を保つようにするとともに，格納庫に保管するかおおいをかける等人が近づいて機体にふれられないようにしておくこと。ただし，おおいをかける場合は，マフラー等高温部が冷却した後に行なうこと。

12　サービス資料

1　推奨潤滑油一覧表

区分	メーカ名	商品名	出荷時充塡油
ディーゼルエンジンオイル	井関農機	井セキディーゼルエンジンオイル	○
	丸善石油	スワピス	
	シエル石油	シェルロテラSオイル	
	出光興産	アポロディーゼループ	
	昭和石油	シルバーパロットエンジンオイル	
	日本石油	ハイディーゼルHDオイル	
	モービル石油	テルバックオイル1100オイル	
	三菱石油	ダイヤモンドHDエンジンオイル	
	大協石油	パイオニアディーゼルエンジンオイル	
	エッソスタンダード	エッソループHD	
	ゼネラル石油	ゼネラルゼミコHDオイル	
	他グレードCB品以上使用		
ギヤーオイル	井関農機	井セキハイポイドギヤーオイル（90#）	○
	丸善石油	ハイポイドスワギヤーSオイル（90#）	
	シェル石油	スパイラックスヘビーデューティ（90#）	
	他有名メーカ（エンジンオイルの項に準ずる）のギヤーオイル（90#）		
	（JIS3種．2号ギヤーオイル）		
油圧オイル	井関農機	サンビス916PD	○
	出光興産	ダフニハイドロリック44#	
	モービル石油	モービルDTEオイルライト	
	他有名メーカのタービン油（JIS1号相当品）		
グリース一般	協同油脂	ユニループNo.2	○
	丸善石油	エトライトグリースNo.2	
	他有名メーカのリチューム系一般グリース		
不凍液	大同化学	ダイクールPT（JIS）	○
	他有名メーカ品を使用		
燃料	有名メーカ品	ディーゼル軽油	○
	（エンジンオイル項に準ずる）	JIS2号～3号（3号は厳寒時）	

2　作業機一覧表

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
本機装着品	三点リンク	C－O大 C－I	井関		作業機取付	●	●			
	チエーンホルダ		〃		チェックチェーン内張用	●	●	●	●	●
	トレーラヒッチ	－	〃	リヤーヒッチ	トレーラ牽引	●	●	●	●	●
	〃	－	〃	〃	〃　ロータリ同着			●	●	●
	リンケージドローバ（短）	C－I	〃	3P	作業機牽引			●	●	●
	〃	C－O大	〃	〃	〃	●	●			
	動力取出装置	20PS以下	〃	PTO	定置作業機の駆動	●	●			
	〃	20PS以上	〃	〃	〃			●	●	●
	油圧取出ユニット（単動型）	150kg／cm	〃		外部油圧取出し（ドッキングローダとダンプトレーラの同着可）			●		
	〃　（〃）	〃	〃						●	●
	〃　（複動型）	〃	〃		複動トレンチヤに使用				●	●
	油圧ブリーザ	50cc	〃	シリンダーケース	平担地用（ドッキングローダ使用時のオイル流出防止）			●	●	●
	〃　（1000）	1000cc	〃	〃	傾斜地用			●	●	●

	バランスウエイト	15kg×3	井関	バンパー	重量バランス調整	●	●	●	●	●
	フロントホイルウエイト	18kg×4	〃	フロントホイル	〃			●	●	●
	〃	35kg×2	〃	〃	〃	●	●			
	リヤホイルウエイト	44kg×2 28kg×4	〃	リヤホイル	牽引力増加用	●	●	●	●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
肥料散布	ブロードカスタ（MBC−150A）	150ℓ	スター	3P	肥料・石灰・種子散布 キャンバスアタッチあり	●	●			
	〃 （MBC−200C）	200	〃	〃	〃			●	●	●
	〃 （HS−150）	150	佐々木	〃	〃	●	●			
	〃 （HS−180）	180	〃	〃	〃	●	●	●		
	〃 （HS−250）	250	〃	〃	〃			●	●	●
	〃 （BC−104）	250	高北	〃	〃			●	●	●
	〃 （EK−300）	300	アマゾーネ	〃	〃			●	●	●
	〃 （ZAE−400）	400	〃	〃	〃					●
	ライムソーワ （TLS150A）	225ℓ×1.5m	スター	けん引	石灰散布	●	●			
	〃 （TLS210）	320 ×2.1	〃	〃	〃			●	●	●
	〃 （MLS210）	〃	〃	3P	〃 PTO駆動					●
	〃 （DHN140）	240 ×1.4	デリカ	〃	〃 鉄車駆動			●	●	●

肥料散布	ライムソーワ	（DHN140K）	240ℓ×1.4m	デリカ	けん引	石灰散布	●	●	●	●	
	〃	（DHN140KB）	〃	〃	〃	〃	●	●	●	●	
	〃	（DHN140B）	〃	〃	3P	〃 タイヤ駆動			●	●	●
	〃	（DH1400）	220 ×1.4	〃	〃	〃 PTO駆動			●	●	●
	〃	（DH1800）	280 ×1.8	〃	〃	〃 〃				●	●
	〃	（F−183T）	180 ×1.8	松山	〃	〃 〃			●	●	●
	〃	（F−161T）	230 ×1.6	〃	〃	〃 〃			●	●	●
	〃	（F−141T）	200 ×1.4	〃	〃	〃 〃	●	●	●		
	バキュームカ	（TVC800B）	800ℓ×7.5m	スター	けん引	尿散布 PTO駆動	●	●	●		
	〃	（TVC1200C）	1200×8	〃	〃	〃 〃				●	●
	〃	（DK−500T）	500 ×5	デリカ	〃	〃 〃	●	●	●		
	〃	（DK−800T）	800 ×7	〃	〃	〃 〃	●	●	●		
	〃	（DK−1100T）	1100×7	〃	〃	〃 〃				●	●
	〃	（DK−1800T）	1800×7	〃	〃	〃 〃				●	●
	スラリインジェクタ	（SI−101）	1 連	高北	〃	糞尿土中注入				●	●
	〃	（TSJ900）	自給式	スター	〃	〃				●	●
	スラリポンプ	（SSM1000）	1000ℓ／分	〃	〃	糞尿かくはん汲みあげ			●	●	●
	マニアスプレッダ	（TMS15）	1.5 t ×4m	〃	〃	堆肥散布			●	●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
耕起	スチールプラウ（S）	12～14"×1	スガノ	3P	水田・畑地・牧草地耕起	●	●			
	〃 （〃）	14～16"×1	〃	〃	〃			●	●	●
	〃 （〃）	12～14 ×2	〃	〃	〃				●	●
	スリックプラウ（YS）	12～14 ×1	〃	〃	〃 樹脂板プラウ	●	●			
	〃 （〃 ）	14～16 ×1	〃	〃	〃 〃			●	●	●
	〃 （〃 ）	12～14 ×2	〃	〃	〃 〃				●	●
	ボルカニックスプラウ（385V）	14"×1 Ⓖ	高北	〃	〃 〃	●	●	●		
	〃 （429V）	15"×1	〃	〃	〃 〃			●	●	●
	〃 （417V）	16"×1	〃	〃	〃 〃			●	●	●
	ニッポンプラウ（TP－25）	25cm×2 Ⓖ	松山	〃	水田耕起，オフセット付			●	●	
	〃 （〃）	25 ×3 Ⓖ	〃	〃	〃 〃				●	●
	双用2連スキ（TR150N）	15cm×2	〃	チャンネルヒッチ	〃	●	●			
	〃 （TR150F）	〃	〃	〃	〃	●	●			
	ディスクプラウ（MDP261C－G）	26"×1 Ⓖ	スター	3P	畑地耕起			●	●	
	〃 （MDP262C－G）	26"×2 Ⓖ	〃	〃	〃				●	●
	サブソイラ （PA）	1本爪45cm	スガノ	〃	耕盤破砕				●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
耕起	補助ロータリ（15W）	15cm	井関	センタロータリ	Vカット無し耕巾増加	●	●			
	〃（〃）	〃	〃	〃	Vカット付耕巾増加	●	●	●		
	〃（〃）	〃	〃	〃	Vカット付耕巾増加				●	●
	〃（20W）	20cm	〃	〃	Vカット無し耕巾増加	●	●			
	〃（〃）	〃	〃	〃	Vカット付耕巾増加	●	●	●		
	〃（〃）	〃	〃	〃	Vカット付耕巾増加				●	●
	普通刃	K21	〃	センタ サイドロータリ		●	●			
	〃	A102	〃	〃				●		
	〃	A101	〃	〃					●	●
	増巾普通刃	K22 (左)・(右)		サイドロータリ		●	●			
	〃	A107 (左)・(右)		〃				●		
	〃	A112 (左)・(右)		〃					●	●
	センタ普通刃	A211 (左)・(右)		センタロータリ		●	●			
	〃	A109 (左)・(右)		〃					●	●
	畦立ナタ刃	C303		センタ サイドロータリ				●		
	〃	C304		〃					●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
代	代掻ロータ（３０１）	巾 φ 160cm×340mm	井関	センタロータリー	ロータリ代掻作業 オプション	●	●			
	〃（〃）	〃	〃	〃	〃 １５W．３０Wロータ			●		
	〃（〃）	180 ×340	〃	〃	〃 〃				●	●
	〃（１０１Ｃ）	135 ×340	〃	サイドロータリ	〃 オプション ３０Wロータ	●	●	●		
	〃（〃）	150 ×340	〃	〃	〃 〃				●	●
掻	スプリングレーキ（５０１）	2.1m	〃	ロータリ	代掻均平作業	●	●	●		
	〃（〃）	2.3	〃	〃	〃				●	●
	スプリングレベラ（１４）	2.2m	上西	〃	〃 関西地区	●	●	●		
	〃（１６）	2.4	〃	〃	〃 〃				●	●
	〃（ＩＳＬ－１９５）	1.95	佐々木	〃	〃 東北地区	●	●	●		
	〃（ＩＳＬ－２２５）	2.25	〃	〃	〃 〃				●	●
	代掻レベラ（ＧＬ－１９５）	1.95	〃	〃	〃 〃	●	●	●		
	〃（ＧＬ－２２５）	2.25	〃	〃	〃 〃				●	●
	代掻レベラ取付ステー	－	井関	〃	丸太，ハシゴ吊り金具	●	●	●	●	●
	ドライブハロー（ＨＤ２０Ａ）	２４０cm	松山	３Ｐ	駆動型，代掻均平作業				●	●
	水田ロータ （ＭＤＲ２００）	２００	スター	〃	〃		●	●	●	

	水田ロータ（MDR250B）	250cm	スター	3P	駆動型代掻均平作業			●	●	●
	刃車ハロー（MTH−122）	210	松山	〃	砕土刃自転・代掻作業	●	●	●		
	〃（MTH−141）	250	〃	〃	〃				●	●
	水田ハロー（H−127）	200	高北	〃	〃	●	●	●	●	●
	代掻レーキ（Ⅲ）	260	井関	〃	ツース型代掻（土寄効果大）	●	●	●	●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
整地・鎮圧	ディスクハロ（MOH1616B）	オフセット 16"×16	スター	3P	プラウ後の砕土均平			●	●	●
	〃（SD1614）	16"×14	佐々木	〃	〃			●		
	〃（SD1816）	18"×16	〃	〃	〃				●	●
	ツースハロー（MLH302）	30本×2連	スター	〃	〃	●	●	●	●	●
	〃（MLH303）	30 ×3	〃	〃	〃				●	●
	K型ローラ（TKR180）	1.8m	〃	けん引	播種前，播種後の鎮圧	●	●	●		
	〃（TKR240）	2.4	〃	〃	〃				●	●
	〃（TKR180B）	1.8	〃	〃	〃 運搬車付	●	●	●		
	〃（TKR240B）	2.4	〃	〃	〃 〃				●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
車輪	補助車輪（301型） ラグ巾 18cm	8－24	井関	リヤホイル	軟弱地耕うん		●			
	〃（〃） 25	9－24	〃	〃	〃			●		
	〃（〃） 35	10－24	〃	〃	〃				●	
	〃（〃）	11－24	〃	〃	〃					●
	フロート車輪（NK－18）	8－22	旭陽	〃	〃	●				
	〃（〃）	8－24	〃	〃	〃		●			
	スナップ車輪（1）	9－24	〃	〃	〃			●		
	〃（〃）	10－24	〃	〃	〃				●	
	〃（101）	11－24	〃	〃	〃					●
	フロート車輪（FS200・250・300）	8－22	名古屋三成	〃	〃	●				
	〃（〃）	8－24	〃	〃	〃		●			
	〃（〃）	9－24	〃	〃	〃			●		
	〃（〃）	10－24	〃	〃	〃				●	
	〃（〃）	11－24	〃	〃	〃					●
	ダイヤホイル（D24－8）	910㎜φ	佐々木	〃	代掻砕土，走行		●			
	〃（D24－9）	970	〃	〃	〃			●		
	〃（D24－10）	1018	〃	〃	〃				●	

車輪	ダイヤホイル（D24－11）		1070φmm	佐々木	リヤホイル	代掻砕土，代掻走行					●
	水田車輪（S）		経　巾 104cm×55cm	久保田	リヤアクスル	〃　〃	●	●			
	〃	（〃）	110 ×65	〃	〃	〃　〃			●		
	〃	（〃）	115 ×65	〃	〃	〃　〃				●	
	〃	（〃）	120 ×65	〃	〃	〃　〃					●
	〃	（T）ヘドロ，泥炭地用	110 ×60	〃	〃	〃　〃	●	●			
	〃	（〃）　〃	110 ×80	〃	〃	〃　〃			●		
	〃	（〃）　〃	120 ×80	〃	〃	〃　〃				●	
	〃	（〃）　〃	125 ×80	〃	〃	〃　〃					●
	〃	（V）	104 ×53	井　関	〃	〃　〃	●	●			
	〃	（〃）	110 ×60	〃	〃	〃　〃			●		
	〃	（〃）	115 ×65	〃	〃	〃　〃				●	
	〃	（〃）	120 ×65	〃	〃	〃　〃					●
	ストレーク車輪（NS－25）		8－24	名古屋三成	リヤホイル	牽引力増大用		●			
	〃	（　〃　）	9－24	〃	〃	〃			●		
	〃	（　〃　）	10－24	〃	〃	〃				●	
	〃	（S－50）	12.4／11－24	〃	〃	〃					●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
畦立	畦立器（202）	床巾 12cm～21cm	小川	ロータリ	水田裏作・排水用畦立	●	●	●	●	●
	〃（302）	〃	〃	〃	〃	●	●	●	●	●
	単尾輪ソケット	—	井関	〃	畦立器（302）に使用	●	●	●	●	●
	畦立用単尾輪	—	〃	〃	〃	●	●	●	●	●
	2連畦立用ヒッチ	—	小川	〃	2連畦立に使用	●	●	●	●	●
	片培土器（201）	床巾 12cm	〃	〃	畦際の畦立	●	●	●	●	●
	〃（201左）	〃	〃	〃	〃	●	●	●	●	●
	〃（401）	19	〃	〃	〃				●	●
	ロータリリッジャ（201）	2連 3連	〃	〃	野菜植付用畦立	●	●	●	●	●
	ロータリブラウ（101）	450φ	スキガラ	センタロータリ	畑の畦立，桑園果樹園の管理作業	●	●	●		
	組合せロータリブラウ（PSR−16）	〃	〃	〃	〃				●	●
	モールブラウ（45−90）	〃	〃	〃	平大畦立，畔際耕うん	●	●	●	●	●
	〃（45−110）	〃	〃	〃	〃 〃	●	●	●	●	●
	土盛刃（SPR1）	〃	〃	ロータリ	2畦，3畦の野菜畦立			●	●	●
	偏心土盛刃（SPR2）	〃	〃	〃	〃			●	●	●
	畦上機（1，2，3，4）	—	太陽	〃	膨軟畦（爪と板と併用）			●	●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
施肥播種・移植	土壌消毒機（HS−6C）	6条	多木	3P	土中線虫の薬剤駆除	●	●	●	●	●
	〃（HS−4C）	4条	〃	〃	〃	●	●	●	●	●
	〃（HS−4CT）	4条 ステンレスタンク	〃	〃	〃	●	●	●	●	●
	ロータリマルチ（RM−180−ⅡA）	1.8m	スキガラ	ロータリ	作物移植時のビニール被覆	●	●	●	●	●
	畦盛板 鎮圧ローラ）アタッチメント									
	ロータリ播種機（TSS4）	4条 デイスクオープナ	多木	〃	稲麦の播種機	●	●	●	●	●
	〃（TSS5）	5条 〃	〃	〃	ロータリ耕うんと同時作業			●	●	●
	〃（TSS6）	6条 〃	〃	〃					●	●
	施肥機（TSF4）	4条	〃	トラクタ腹部	化学肥料散布，タイヤ駆動				●	●
	グレンドリル（MGD7B	7条 肥料100ℓ 種子2.8×7	スター	3P	水稲，麦の条播，施肥				●	●
	トランスプランタ（K3PR）	3畦	アコード	3P	野菜移植			●	●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
中耕・除草・防除	カルチベータ（MCV3）	3畦	スター	3P	中耕，除草，培土			●	●	●
	リッジャ（MRD3A）	〃	〃	〃	野菜の畦作り，培土			●	●	●
	スパイラルロータ	350φ	向井	センタロータリ	果樹園の除草	●	●	●		
	〃	400φ	〃	〃	〃				●	●

	リードスプレーヤ（LS－2 ）	180ℓ×2	有光	けん引	水田・畑・果樹・防除	●	●	●	●	●
	〃 （LKF）	250 ×2	初田	〃	〃	●	●	●	●	●
	〃 （L8F）	200 ×2	〃	〃	〃	●	●	●	●	●
	〃 （LS－23AM）	150 ×2	有光	3P	〃				●	●
	〃 （LS－330AM）	200	〃	〃	〃			●	●	●
	〃 （M200F）	〃	初田	〃	〃			●	●	●
	グランドダスタ （PD100D）	400kg	有光	けん引	粉剤防除	●	●	●	●	●
	〃 （IHD100）	180ℓ	初田	〃	〃	●	●	●		
	〃 （IHD100P）	〃	〃	3P	〃				●	●

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
収穫（掘取）	自脱作業台（SC－1B）		佐々木	3P	脱穀機を搭載し移動しながら脱穀作業を行う			●		
	〃 （SC－2B）		〃	〃	〃				●	●
	堀取機（L－65A）	650㎜巾	松山	〃	馬レイ薯用				●	●
	〃 （L－65AR）	〃	〃	〃	〃 （つる切付）				●	●
	〃 （B－65）	〃	〃	〃	コンニヤク・球根用	●	●	●		
	〃 （B－80）	800	〃	〃	〃	●	●	●		
	〃 （B－95）	950	〃	〃	〃				●	●
	〃 （A－105）	1050	〃	〃	球根用				●	●

	堀取機（B－105）	1050㎜巾	松山	3P	コンニヤク，球根用				●	●
	〃（D－65）	650	〃	〃	甘藷用	●	●	●		

分類	作業機名（型式）	規格 仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
牧草刈取	リヤモーア（MTM135E）	C−O大135cm	スター	3P	牧草の刈取 レシプロフィンガー	●	●			
	〃（MTM150F）	C−1 150	〃	〃	〃 〃			●	●	●
	〃（MTM180F）	C−1.2 180	〃	〃	〃 〃				●	●
	〃（スプリング型）	6フィート	久保田	〃	〃 レシプロフィンガーレス				●	●
	〃（〃 S−24）	5	〃	〃	〃 〃			●	●	●
	〃（RSH−5）	180cm	ラスペ	〃	〃 レシプロフィンガー				●	●
	ミッドモーア（MS−25）	5フィート	久保田	トラクタ腹部	〃 レシプロフィンガーレス				●	
	〃（MS−28）	〃	〃	〃	〃 〃					●
	ディスクモーア（SM−4）	170cm	ウエルガ	3P	〃					●
	グラスチョッパ（DMH1100）	110cm	ターラップ	けん引	牧草細断刈取				●	●
	〃（SH1100C）	〃	ジロー	〃	〃				●	●
	フォーレージチョッパ（MFC90）	90	スター	〃	〃			●	●	
	〃（MFC110A）	110	〃	〃	〃				●	●
	フォーレージハーベスタ（FH102）	100	高北	〃	〃				●	●

	フォーレージハーベスタ（FH−105GW）	60cm	高　北	けん引	牧草細断刈取	●	●	●		
	〃　（FH−80）	80	〃	〃	〃	●	●	●		

分類	作業機名（型式）	規格・仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
牧草集草反転・梱包	サイドレーキ（MSR170）	フィンガホイル 3連	スター	3P	牧草の反転，集草	●	●	●	●	
	〃（MSR220A）	4	〃	〃	〃				●	●
	〃（HM144）	4	高　北	〃	〃				●	●
	ヘイメーカ（MHM160）	ベルト式160mm	スター	〃	牧草の反転，拡散，集草	●	●	●		
	〃（MHM180D）	〃　180	〃	〃	〃			●	●	●
	テッダレーキ（HM135）	〃　5'	高　北	〃	〃	●	●	●		
	〃（HM136）	〃　6'	〃	〃	〃			●	●	●
	サイドデリバリレーキ（ボリップS−35）	ツースバー　3m	ハーゲドン	〃	主に牧草の集草					●
	テッダレーキ（ヘイマックス）	垂直ロータ 2連　3m	レーリー	〃	牧草の反転，拡散，集草				●	●
	ジャイロテッダ（MGT360C）	4連	スター	〃	〃			●	●	●
	〃（MGH300A）	2連	〃	〃	〃					●
	ヘイベーラ（AP41）	16"×12"	ウエルガ	けん引	牧草のピックアップ梱包				●	●
	ローデングシュート／ベールスロアー）アタッチメント									

分類	作業機名（型式）	規格・仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
積込・運搬	ドッキングローダ（DTS−16）	250kg	三陽	トラクタボディ	重量物持上げ，土砂，牧草，堆肥の運搬	●	●			
	〃（DTS−20）	300	〃	〃	〃			●		
	〃（DTS−24）	〃	〃	〃	〃				●	
	〃（DTS−28）	450	〃	〃	〃					●
	バケット 爪付バケット スーパマニアフォーク ヘイフォーク ローデイングフック（各機種共オプション）	—	〃	ドッキングローダアタッチメント	土砂，泥用 〃 堆肥 乾草 重量物持上	●	●	●	●	●
	ハイダンプキット 〃	—	〃	〃	各アタッチメントの油圧作動					
	トレーラ（DK−7A）	500kg	デリカ	けん引	運搬	●	●	●		
	〃（DK−8A）	1000	〃	〃	〃				●	●
	ダンプトレーラ（DK−7D）	500	〃	〃	〃	●	●	●		
	〃（DK−8D）	1000	〃	〃	〃				●	●
	〃（DH−10）	〃	スター	〃	〃				●	●
	ファームワゴン（DW500）	500	デリカ	〃	牧草運搬，堆肥石灰散布	●	●	●		
	〃（DW1000）	1000	〃	〃	〃				●	●

（注）同一機種でもトラクタによって配線，配管が異るのでトラクタ名を明示のこと。

マニアアタッチ，ライムアタッチ（標準）
テイルボード，フオーレジエレベータ（オプション）

分類	作業機名（型式）	規格・仕様	メーカ	装着	用途・備考	TS1610	TS1910	TS2210	TS2510	TS2810
その他	カーワッシヤ（201）	5/8"	井関	リヤ PTO	トラクタ・作業機の洗浄	●	●	●	●	●
	リンクジャッキ（〃）	—	〃	3P ロワリンク	トラクタ後輪引上げ			●	●	●
	フロントドーザ（FTS−20）	170cm	久保田	トラクタボディ	圃場の整備・除雪作業			●		
	〃（FTS−24）	200	〃	〃	〃				●	
	〃（FTS−28）	200	〃	〃	〃					●
	ハーフトラック（HTS20U.HTS20V）	42cm−26枚	〃	〃	湿田雪上走行			●		
	〃（HTS24U.HTS20V）	47 −28	〃	〃	〃				●	
	〃（HTS28U.HTS20V）	55 −30	〃	〃	〃					●
	ランドレベラ（TL−M3）	180cm	スキガラ	3P	耕起后の均平，畦崩し土の移動	●	●			
	〃（TL−MB）	〃	〃	〃	〃			●	●	●
	〃（TL−H3）	240	〃	〃	〃				●	●
	トレンチャ（TC）	巾 深 cm 13cm×110cm 28 ×110	佐々木	リヤー	ゴボウ・長芋の堀取，植付床				●	●
	〃（TE）	13 ×120	〃	〃	〃（うめもどし）				●	●
	〃（TD）	40 × 50	〃	3P	果樹，桑園の施肥溝				●	●
	〃（TT−410FR−R15）	15 ×130	川辺	〃	ゴボウ，長芋の植床（うめもどし）				●	●
	〃（TT−410FR−F41）	41 × 85	〃	〃	果樹，桑園の施肥溝				●	●
	〃（TT−410F−R41）	〃	〃	〃	畑地の深耕				●	●

3　仕様一覧表

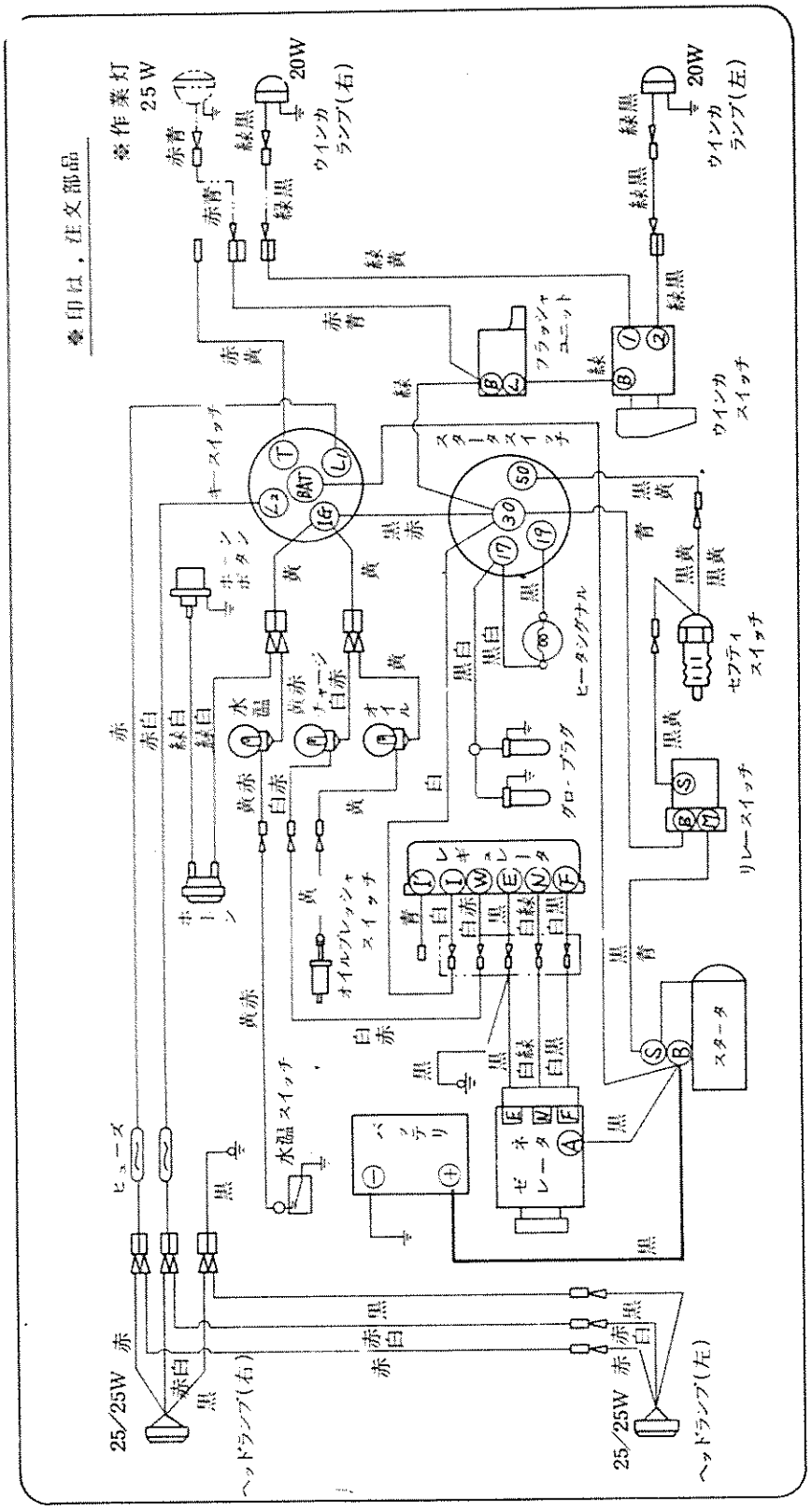
（この仕様は改良の為予告なく変更することがあります。）

仕様＼機種			TS2810F	TS2810	TS2510	TS2210	TS1910	TS1610
寸法(cm) 重量(kg)	全長		310		299	282	228	226
	全巾		146.5		144	128	109	
	全高		197		198	196	193	190
	軸距		178	175	164	157	141.5	133.5
	輪距	前	112	パワステ仕様 98~148, 100~150		95~135	85~95	
		後	114 ~ 143			95~130	85~100	
	最低地上高		32	36	35.5	35	32	
	最小回転半径		255	234	218	204	175	170
	重量		1,330	1,180	1,072	990	745	726
エンジン	名称		3AA1		2AB1		2AA1	
	型式		3気筒		水冷，4サイクル　立型　2気筒			
	出力 PS/r.p.m		28/2600		25/2600	22/2600	18.2/2600	16/2300
	排気量 ℓ		1.463		1.184		0.975	
	内径×行程 mm		3−86×84		2−86×102		2−86×84	
	燃焼室形式		渦流室式					
	潤滑方式		強制循環式					
	冷却方式		水冷強制循環式					
	エアクリーナ		乾式サイクロン式					
	燃料	種類	ディーゼル軽油JIS 2号~3号（3号は厳寒時）					
		容量	30			20	16	
	始動方式		電動機始動（グロープラグ付）					
	バッテリ		30HR		N70Z			
車体装置	クラッチ形式		乾式単板					
	変速方式		選択噛合摺動式					
	差動装置		傘歯車式（デフロック付）					

仕様＼機種			TS2810F	TS2810	TS2510	TS2210	TS1910	TS1610
車体装置	制動装置		内部拡張機械式（駐車併用）					
	かじ取装置		ボールスクリュー式又はパワーステアリング式					
	タイヤ	前	6.00-16	5.00−15		4.00-15	4.00−12	
		後	12.4/11−24		11.2/10-24	9.5/9-24	8.3/8-24	8.3/8-22
	前車軸型式		逆エリオット式	センタピン・ルモアン式				
	後車軸型式		セントラルアクスル					
作業機昇降装置	型式		油圧式					
	装着	ロータリ	3P方式				3Pおよび2P方式	
		けん引	ピン固定式					
	3点リンク		カテゴリー1				カテゴリー0大	
	自動制御		ポジションコントロール					
走行速度 Km/hr（）内はクリープ速度を示す	前進	1	1.40 (0.23)		1.39 (0.23)	1.37	0.86	0.85
		2	1.93 (0.31)		1.92 (0.31)	1.89	1.21	1.19
		3	2.7 (0.43)		2.6 (0.43)	2.6	1.79	1.76
		4	3.0 (0.48)		3.0 (0.48)	2.9	2.5	2.4
		5	4.1 (0.67)		4.1 (0.66)	4.0	3.5	3.4
		6	5.7 (0.92)		5.7 (0.92)	5.6	5.1	5.0
		7	7.1 (1.15)		7.0 (1.14)	6.9	6.6	6.4
		8	9.8 (1.58)		9.7 (1.58)	9.6	9.2	9.1
		9	14.8 (2.18)		14.8 (2.17)	14.5	14.9	14.8
	後進	R.1	1.93 (0.31)		1.92 (0.31)	1.89	1.21	1.19
		R.2	4.1 (0.67)		4.1 (0.66)	4.0	3.5	3.4
		R.3	9.8 (1.58)		9.7 (1.58)	9.6	9.2	9.1
PTO軸	回転数 r.p.m	1	630			635	548	537
		2	773			780	713	711
		3	990			1001	878	890
		4	1547			1573	1281	1274

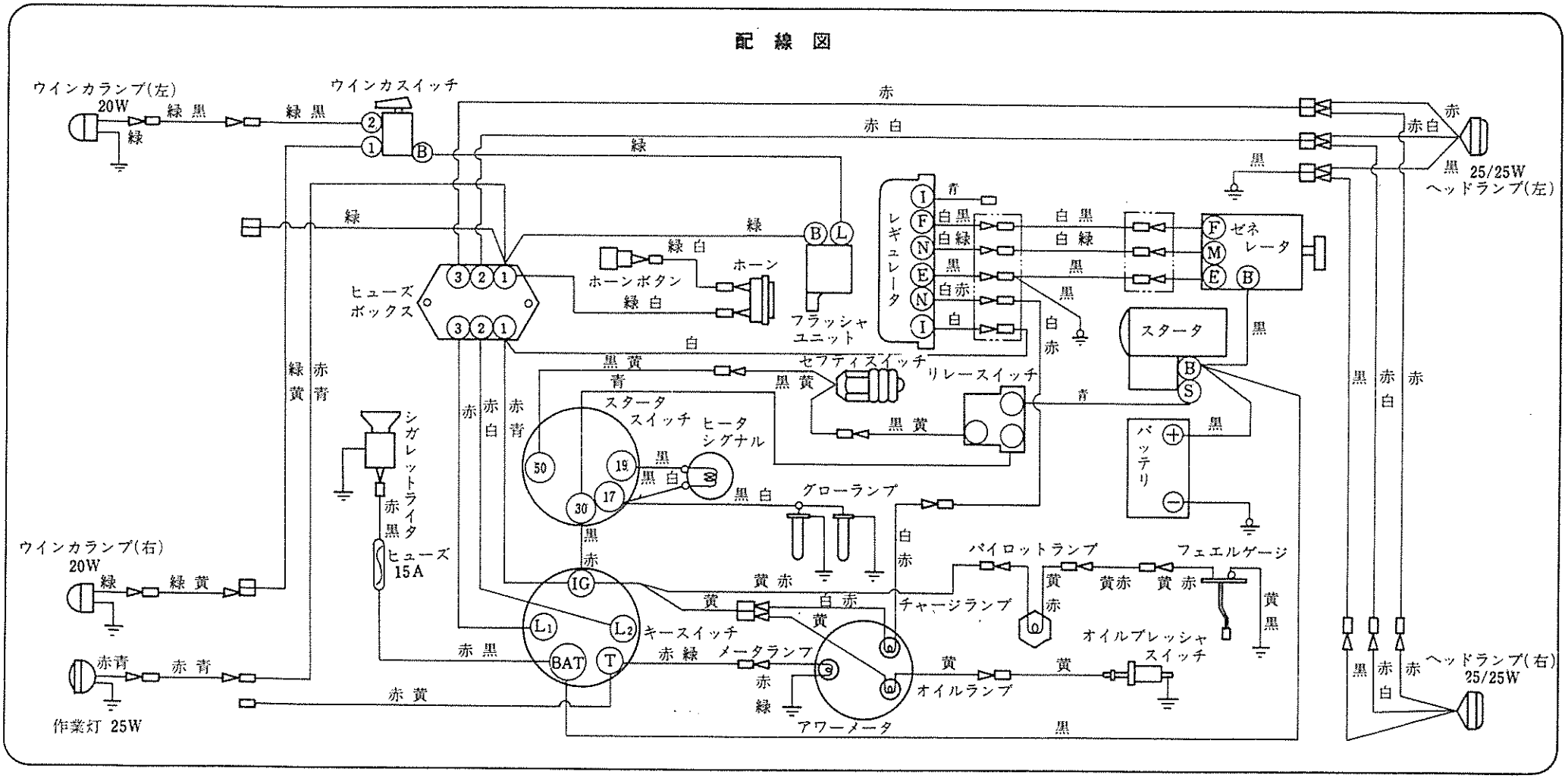
4　配　線　図

ＴＳ１９１０型，ＴＳ１６１０型



TS2.810型 TS2.510型 TS2.210型

配 線 図



井関農機株式会社

本　　社	799-26	松山市馬木町700	TEL 0899－78－1211
本社事務所	102	東京都千代田区紀尾井町3番地（秀和紀尾井町パークビル）	TEL 03－238－5200
営業札幌支店	060	札幌市中央区北4条西6－1－1（毎日札幌館ビル）	TEL 011－231－3640
東北総合センター	989-24	宮城県岩沼市下野郷新南長沼1－2	TEL 02232－4－1111
関東総合センター	125	東京都葛飾区水元飯塚町484	TEL 03－609－0156
関西総合センター	523	滋賀県近江八幡市千僧供町字大橋602	TEL 07483－7－3831
中四国総合センター	790	松山市湊町7－5	TEL 0899－41－9111
九州総合センター	861-41	熊本市近見町3257－1	TEL 0963－55－4131